

## 第5章 日常の生活空間に対する認識

### 1. 居住の意向と理由（問6）

#### （1）居住の意向

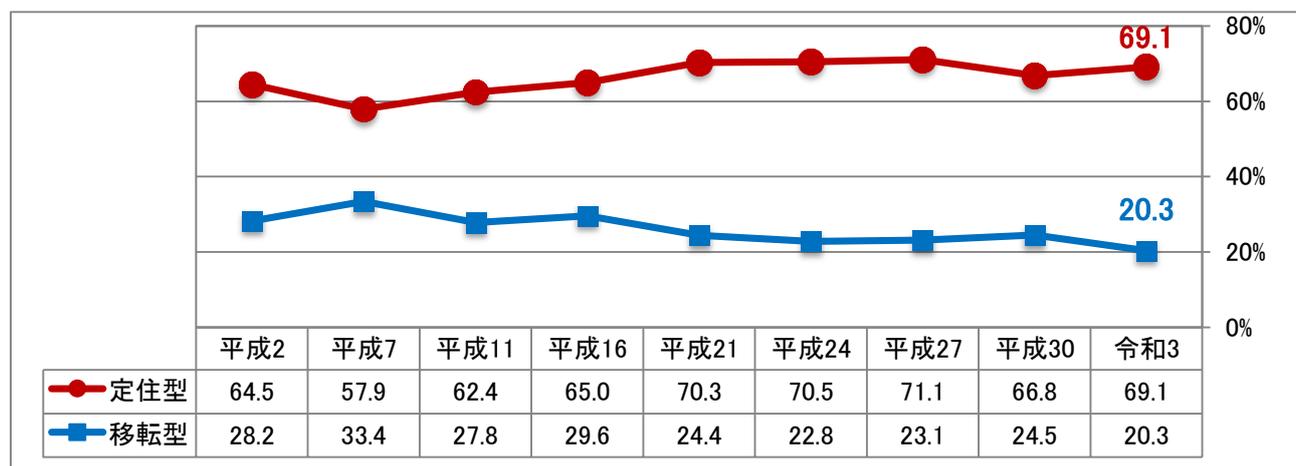
今住んでいるところに今後も住みたいと思うかについては、定住型(住みたいと思う)の回答の割合は69.1%、移転型(よそに移りたいと思う)の回答は20.3%となっている。

平成2年からの調査と比較すると、定住型の割合は、移転型の割合よりも一貫して高い。

地域別にみると、定住型の割合は八重山(74.4%)、次いで中部(70.3%)と高い。一方、移転型は那覇市(24.5%)、次いで宮古(21.5%)と続く。

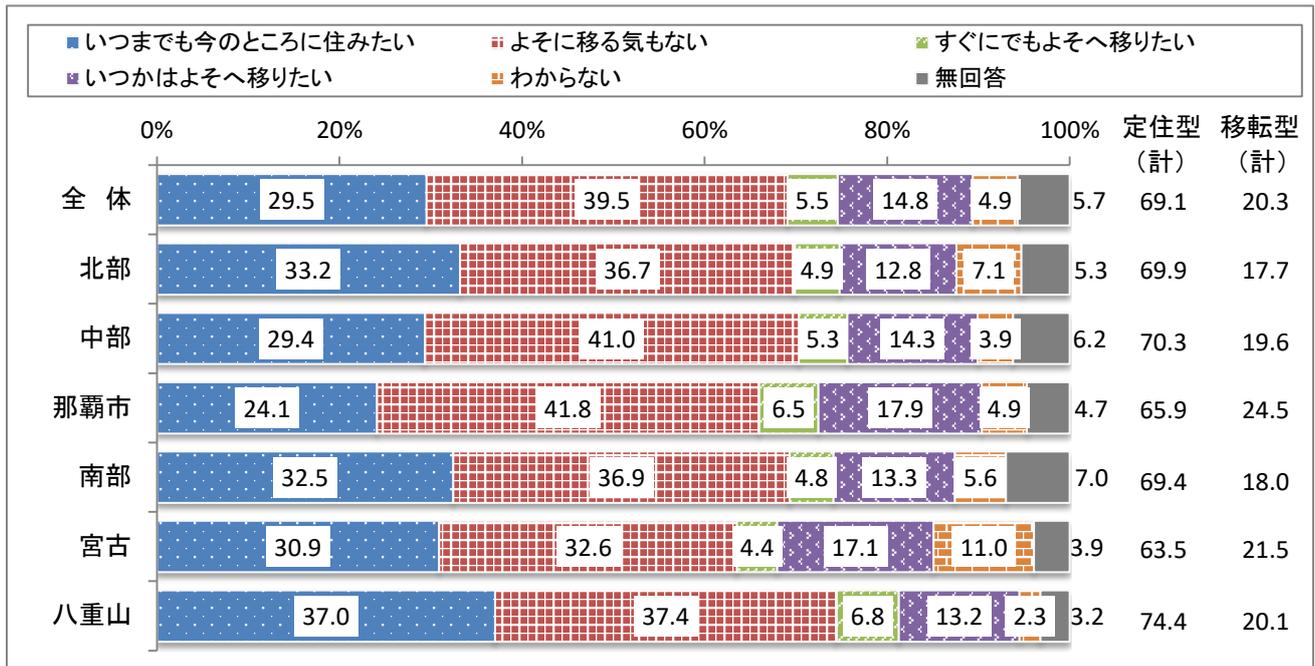
年代別にみると、定住型の10代の割合が55.0%に対して70代以上の割合は79.4%と年代が高くなるにつれて定住型の割合が高くなっている。移転型は、10代の割合が32.8%に対して70代以上は8.9%と若年層の割合が高くなっている。

図表Ⅱ-5-1 居住の意向（時系列比較）

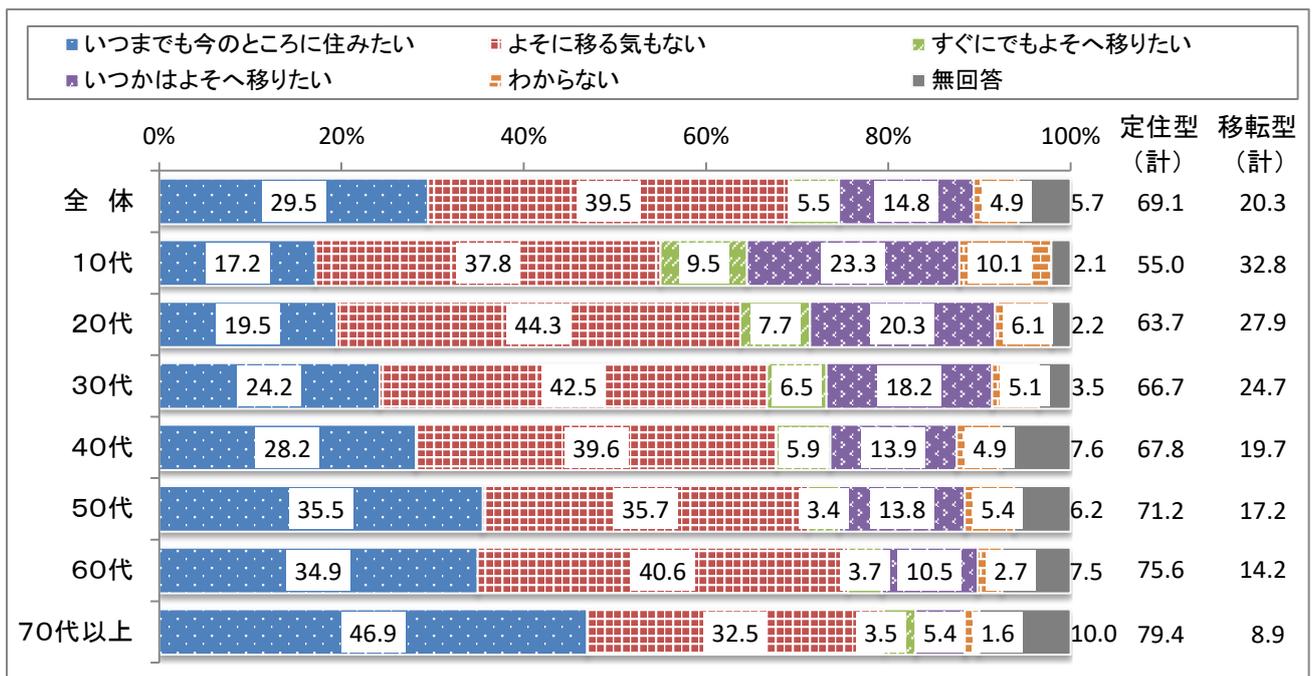


II 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-2 居住の意向（地域別）



図表Ⅱ-5-3 居住の意向（年代別）



## II 本調査の結果 第5章 日常生活空間に対する認識

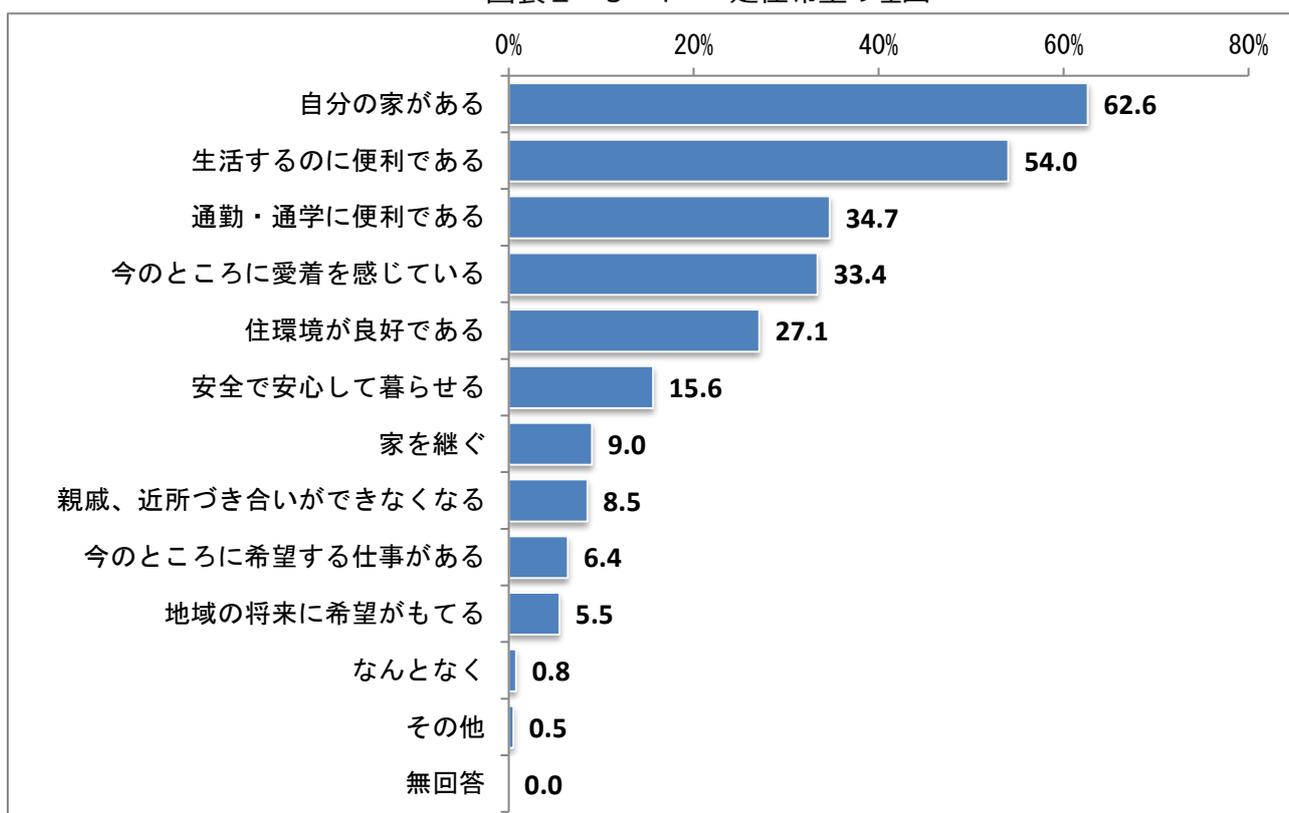
### (2) 定住希望の理由

今のところに住みたい理由については、「自分の家がある」(62.6%)の割合が高く、次いで「生活するのに便利である」(54.0%)、「通勤・通学に便利である」(34.7%)、「今のところに愛着を感じている」(33.4%)が上位となる。

地域別にみると、那覇市が「通勤・通学に便利である」「生活するのに便利である」の割合が他地域よりも高い。八重山は「今のところに愛着を感じている」の割合が他地域よりも上回っている。

年代別にみると、50代～70代以上は「自分の家がある」の割合が7割以上と高い傾向にある。

図表Ⅱ-5-4 定住希望の理由



## Ⅱ 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-5 定住希望の理由（地域別）

(%)	自分の家が ある	地域の将来に 希望がある	通勤・通学に 便利である	希望する仕事に ある	今のところ ない	親戚、近所づ き合いがで き	住環境が良 好である	安全で安心し て暮らせる	生活するの に便利である	愛着を感じて いる	今のところ 家を継ぐ	なんとなく	その他	無回答
全体	62.6	5.5	34.7	6.4	8.5	27.1	15.6	54.0	33.4	9.0	0.8	0.5	0.0	
北部	70.3	7.0	19.0	10.1	10.8	33.5	22.8	30.4	43.0	12.0	0.0	0.6	0.0	
中部	62.3	5.5	35.4	5.7	9.9	22.8	12.5	58.1	35.2	8.2	0.9	0.5	0.0	
那覇市	52.5	5.2	48.6	4.1	6.0	24.7	11.5	71.7	24.2	6.3	0.8	0.5	0.0	
南部	69.3	4.8	29.9	6.6	7.2	36.1	20.9	42.4	31.9	10.1	0.6	0.3	0.0	
宮古	65.2	7.0	27.0	11.3	7.8	25.2	26.1	41.7	34.8	11.3	1.7	0.0	0.9	
八重山	66.3	6.1	20.9	11.0	8.0	28.8	18.4	38.0	43.6	16.0	0.6	0.0	0.0	

図表Ⅱ-5-6 定住希望の理由（年代別）

(%)	自分の家が ある	地域の将来に 希望がある	通勤・通学に 便利である	希望する仕事に ある	今のところ ない	親戚、近所づ き合いがで き	住環境が良 好である	安全で安心し て暮らせる	生活するの に便利である	愛着を感じて いる	今のところ 家を継ぐ	なんとなく	その他	無回答
全体	62.6	5.5	34.7	6.4	8.5	27.1	15.6	54.0	33.4	9.0	0.8	0.5	0.0	
10代	54.8	7.7	43.3	5.3	5.3	21.6	9.6	53.4	31.7	1.9	2.9	0.0	0.0	
20代	40.6	9.1	39.2	6.2	9.1	22.7	13.8	61.6	35.5	5.7	2.2	0.0	0.0	
30代	45.4	7.4	42.2	11.1	11.0	22.1	11.3	55.3	32.5	9.0	0.0	1.1	0.2	
40代	59.4	6.0	40.1	5.0	7.8	30.7	17.2	50.9	30.7	11.0	0.7	0.9	0.0	
50代	70.0	3.4	36.1	9.3	9.6	26.1	13.1	51.8	31.3	10.7	0.5	0.0	0.0	
60代	79.8	3.6	25.5	3.6	6.5	31.0	20.1	53.0	34.2	9.6	0.3	0.3	0.0	
70代以上	79.2	3.8	15.7	2.0	9.6	30.0	20.1	55.6	41.6	8.5	0.7	0.7	0.0	

## II 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

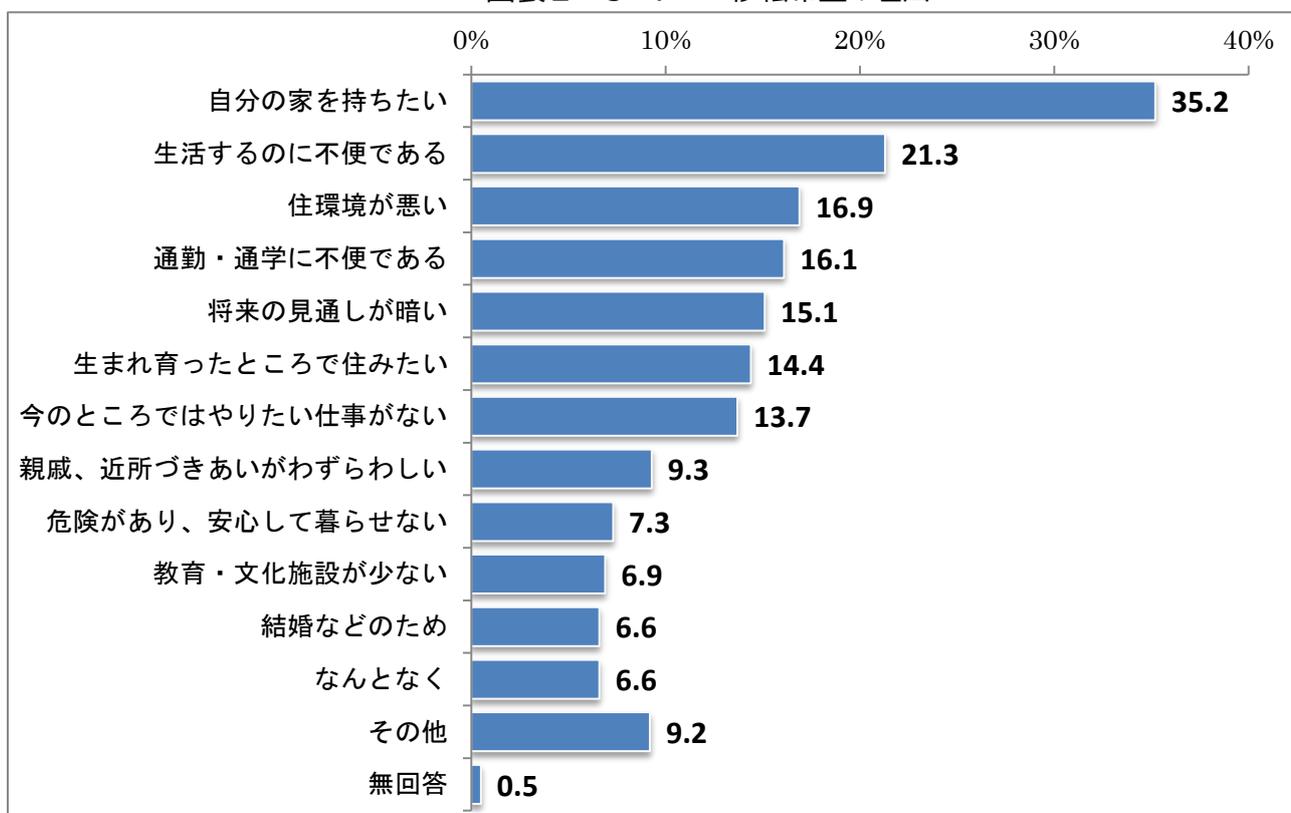
### (3) 移転希望の理由

よそに移りたい理由については、「自分の家を持ちたい」(35.2%)の割合が高く、次いで「生活するのに不便である」(21.3%)、「住環境が悪い」(16.9%)が上位となる。

地域別にみると、北部が「生活するのに不便である」、南部が「通勤・通学に不便である」、宮古が「住環境が悪い」の割合が他地域よりも高い。

年代別にみると、10代が「通勤・通学に不便である」、20代が「自分の家を持ちたい」、50代が「親戚、近所づきあいがわずらわしい」、60代が「住環境が悪い」、70代以上が「生まれ育ったところで住みたい」の割合が他年代よりも高くなっている。

図表Ⅱ-5-7 移転希望の理由



## II 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-8 移転希望の理由（地域別）

(%)	ち 自 分 の 家 を 持 た い	が 将 来 の 見 通 し が 暗 い	不 通 勤 で ・ 通 学 に あ る	事 は 今 の と こ ろ の 仕 事 が な い	今 の と こ ろ の 仕 事 が な い	ら き わ あ い が わ ず づ	親 戚 ・ 近 所 づ づ	住 環 境 が 悪 い	せ あ ん し な い	危 険 が あ り 、 暮 ら し て	不 便 で あ る の に	生 活 す る の に	た い と こ ろ で 住 み た い	生 ま れ て 育 つ た と こ ろ	め 結 婚 な ど の た め	設 教 育 ・ 文 化 施 が 少 な い	な ん と な く	そ の 他	無 回 答
全 体	35.2	15.1	16.1	13.7	9.3	16.9	7.3	21.3	14.4	6.6	6.9	6.6	9.2	0.5					
北部	32.5	27.5	22.5	20.0	15.0	0.0	10.0	52.5	27.5	5.0	7.5	0.0	2.5	0.0					
中部	37.4	13.7	14.7	15.2	10.0	20.9	9.0	15.6	10.9	6.6	4.7	7.1	8.1	0.5					
那覇市	33.3	11.9	9.6	9.6	5.9	20.0	7.4	17.0	14.1	5.9	8.1	8.9	14.1	0.7					
南部	34.5	14.9	28.7	14.9	11.5	11.5	4.6	24.1	13.8	9.2	6.9	6.9	8.0	0.0					
宮古	38.5	12.8	12.8	5.1	5.1	23.1	2.6	28.2	17.9	5.1	12.8	2.6	12.8	2.6					
八重山	29.5	27.3	11.4	15.9	9.1	6.8	0.0	27.3	25.0	4.5	13.6	2.3	4.5	0.0					

図表Ⅱ-5-9 移転希望の理由（年代別）

(%)	ち 自 分 の 家 を 持 た い	が 将 来 の 見 通 し が 暗 い	不 通 勤 で ・ 通 学 に あ る	事 は 今 の と こ ろ の 仕 事 が な い	今 の と こ ろ の 仕 事 が な い	ら き わ あ い が わ ず づ	親 戚 ・ 近 所 づ づ	住 環 境 が 悪 い	せ あ ん し な い	危 険 が あ り 、 暮 ら し て	不 便 で あ る の に	生 活 す る の に	た い と こ ろ で 住 み た い	生 ま れ て 育 つ た と こ ろ	め 結 婚 な ど の た め	設 教 育 ・ 文 化 施 が 少 な い	な ん と な く	そ の 他	無 回 答
全 体	35.2	15.1	16.1	13.7	9.3	16.9	7.3	21.3	14.4	6.6	6.9	6.6	9.2	0.5					
10代	33.1	15.3	30.6	25.8	1.6	5.6	0.0	19.4	0.0	4.8	8.9	14.5	8.1	0.0					
20代	47.2	12.9	15.2	15.7	7.9	6.7	2.2	15.7	11.2	20.2	5.6	9.0	4.5	0.0					
30代	41.7	14.1	16.0	10.7	8.3	22.3	9.7	18.9	17.5	9.2	10.7	4.9	8.7	1.0					
40代	40.9	14.1	15.2	13.1	13.1	13.1	8.1	22.2	16.7	3.5	5.6	4.0	4.5	0.0					
50代	25.2	17.2	13.2	12.6	15.2	23.8	10.6	25.8	15.2	0.0	2.6	4.6	13.9	0.0					
60代	20.1	19.4	7.9	5.0	10.1	29.5	12.2	26.6	18.7	0.0	6.5	6.5	15.1	0.7					
70代以上	12.1	9.1	21.2	21.2	0.0	18.2	6.1	24.2	30.3	0.0	12.1	0.0	24.2	6.1					

## II 本調査の結果 第5章 日常生活空間に対する認識

### (4) 移転希望先

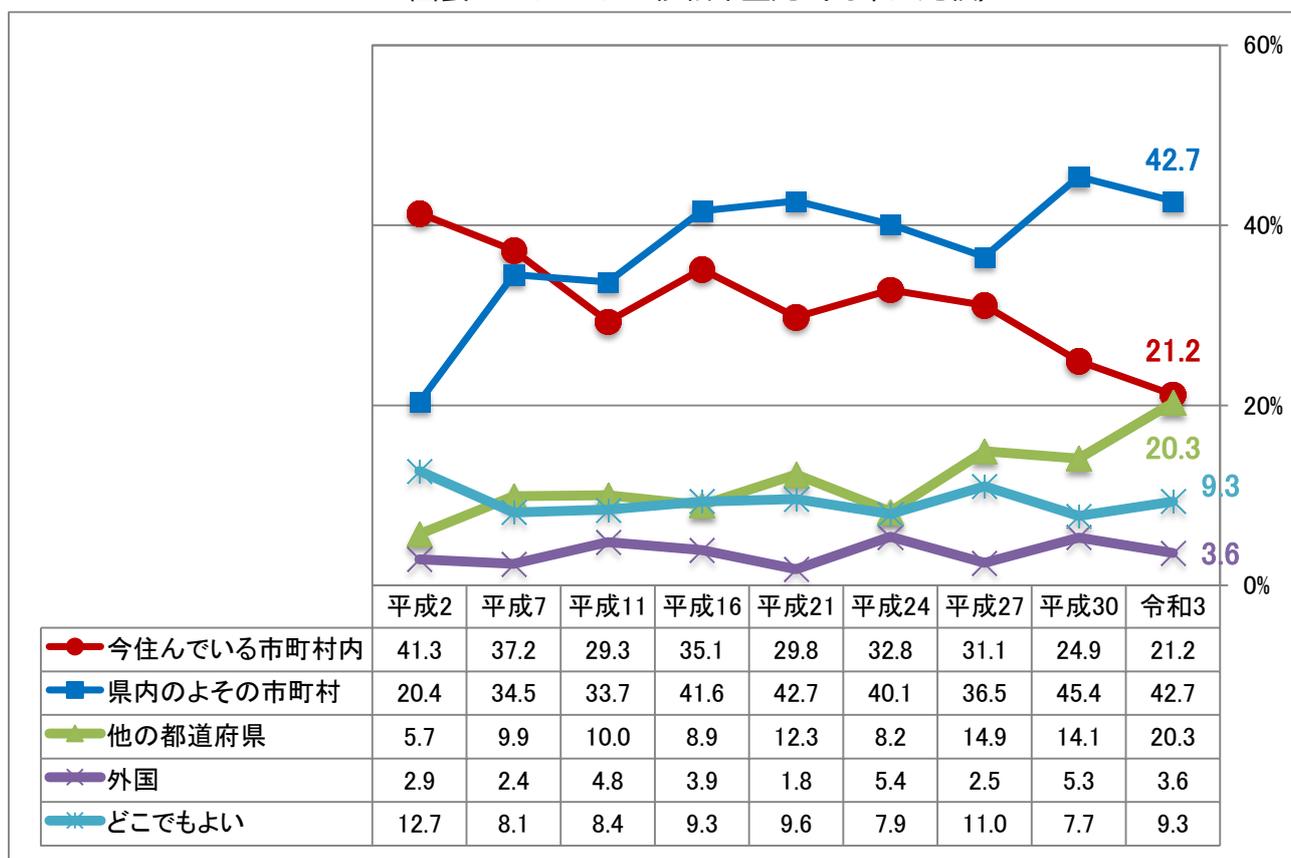
よそに移りたいと回答した方の移転希望先については、「県内のよその市町村」(42.7%)の割合が高く、次いで「今住んでいる市町村内」(21.2%)、「他の都道府県」(20.3%)が上位となる。

過去の調査結果を見ていくと、「他の都道府県」の割合が上昇している。一方、「今住んでいる市町村内」の割合が減少している。

地域別にみると、南部で「県内のよその市町村」の割合が6割程と高く、北部で「他の都道府県」の割合が3割弱、那覇市が「今住んでいる市町村内」の割合が3割弱と高い。

年代別にみると、10代が「他の都道府県」の割合が高く、60代は「県内のよその市町村内」の割合が高くなっている。若年層は県外・海外志向が高く、高齢者層は県内移動志向が高い傾向がある。

図表Ⅱ-5-10 移転希望先（時系列比較）



## Ⅱ 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-11 移転希望先（地域別）

(%)	る今 市住 町ん 村で 内い	の県 市内 町の 村よ そ	県他 の 都道 府	外国	いど こ でも よ	無 回 答
全体	21.2	42.7	20.3	3.6	9.3	2.9
北部	17.5	40.0	27.5	0.0	12.5	2.5
中部	21.3	43.1	19.4	5.2	8.5	2.4
那覇市	28.9	33.3	21.5	2.2	11.9	2.2
南部	9.2	60.9	16.1	2.3	6.9	4.6
宮古	33.3	33.3	23.1	0.0	7.7	2.6
八重山	15.9	36.4	22.7	11.4	6.8	6.8

図表Ⅱ-5-12 移転希望先（年代別）

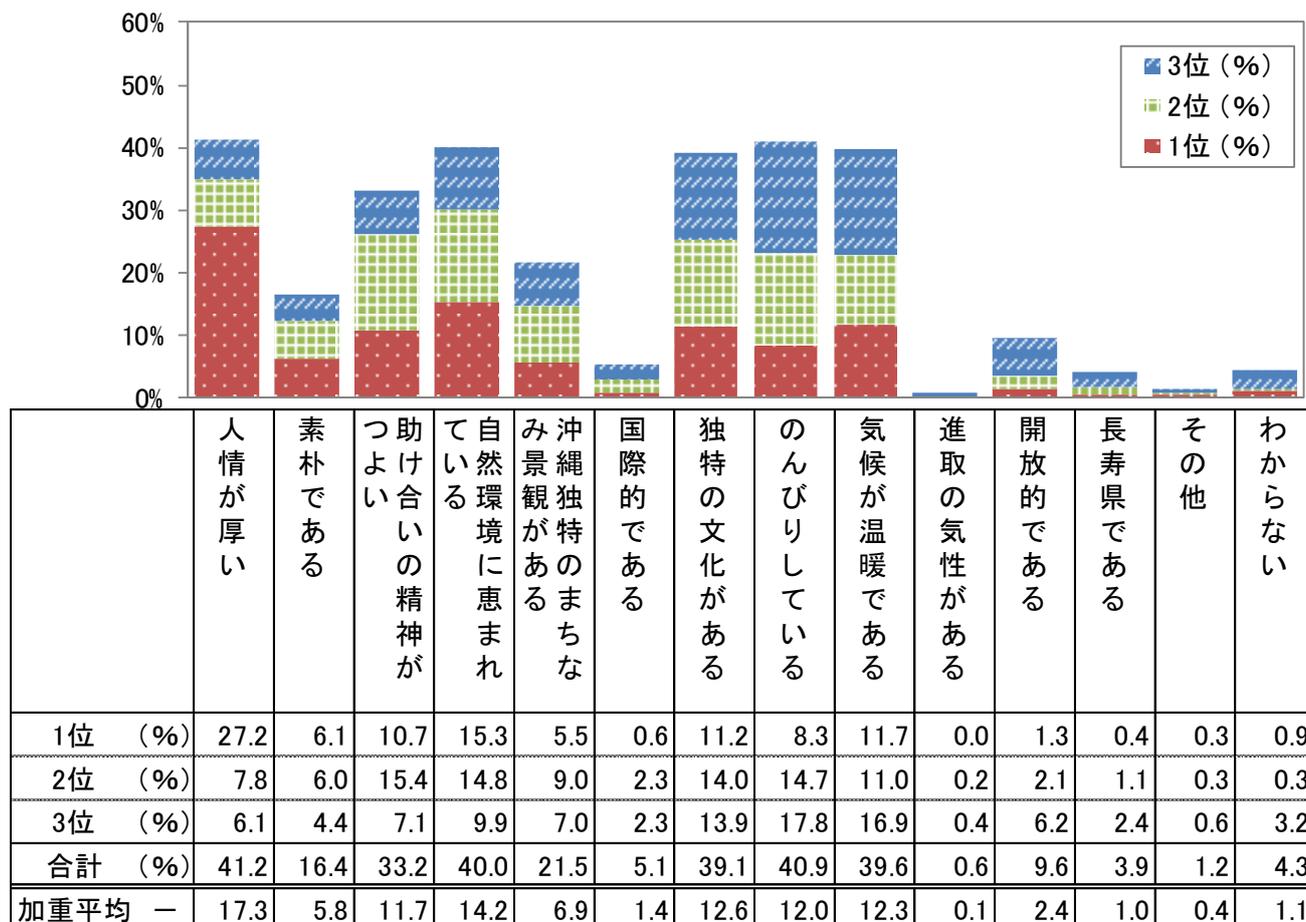
(%)	る今 市住 町ん 村で 内い	の県 市内 町の 村よ そ	県他 の 都道 府	外国	いど こ でも よ	無 回 答
全体	21.2	42.7	20.3	3.6	9.3	2.9
10代	6.5	23.4	54.8	4.0	11.3	0.0
20代	17.4	34.3	27.0	6.7	12.4	2.2
30代	18.9	46.6	17.5	6.3	8.7	1.9
40代	28.3	44.4	16.2	2.5	6.1	2.5
50代	24.5	47.0	8.6	1.3	10.6	7.9
60代	28.1	57.6	7.2	0.0	5.8	1.4
70代以上	24.2	42.4	6.1	0.0	18.2	9.1

## 2. 県（民）の長所・短所（問7）

### （1）県（民）の長所

本県あるいは県民の長所について、13項目から優先順に1～3位の順位をつけて選んでもらったところ、1～3位の合計比率は「人情が厚い」(41.2%)の割合が最も高く、以下「のんびりしている」(40.9%)、「自然環境に恵まれている」(40.0%)、「気候が温暖である」(39.6%)が4割前後で続いている。

図表Ⅱ-5-13 県（民）の長所（1～3位順位づけ比率）



## II 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

加重平均により過去の調査と比較すると、平成11年以降は「長寿県である」の割合が減少している。平成24年以降「沖縄独特のまちなみ景観がある」の割合が上昇している。

地域別にみると、1～3位の合計比率は中部、南部は「人情が厚い」の割合が他項目の中で最も高い。那覇市は「気候が温暖である」、宮古は「のんびりしている」、北部、八重山は「自然環境に恵まれている」の割合が最も高い。

年代別にみると、40代、60代、70代以上は「気候が温暖である」の割合が最も高い。50代が「人情が厚い」の割合が最も高く、10代・20代が「のんびりしている」の割合が最も高い。

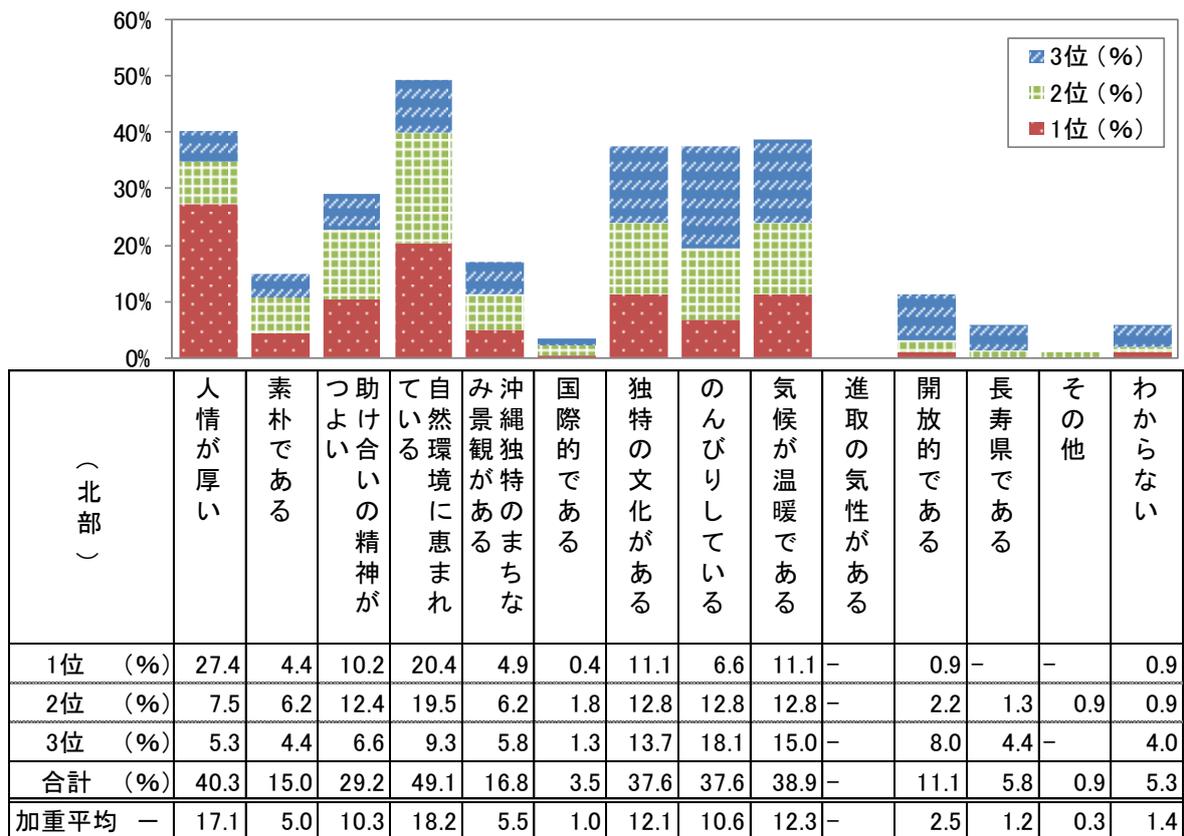
県外居住経験年数別にみると、経験無しから5年未満においては、「人情が厚い」、「独特の文化がある」の割合が比較的高く、経験5年以上においては、「自然環境に恵まれている」、「気候が温暖である」の割合が比較的高くなっている。

図表Ⅱ-5-14 県（民）の長所（時系列比較・加重平均）

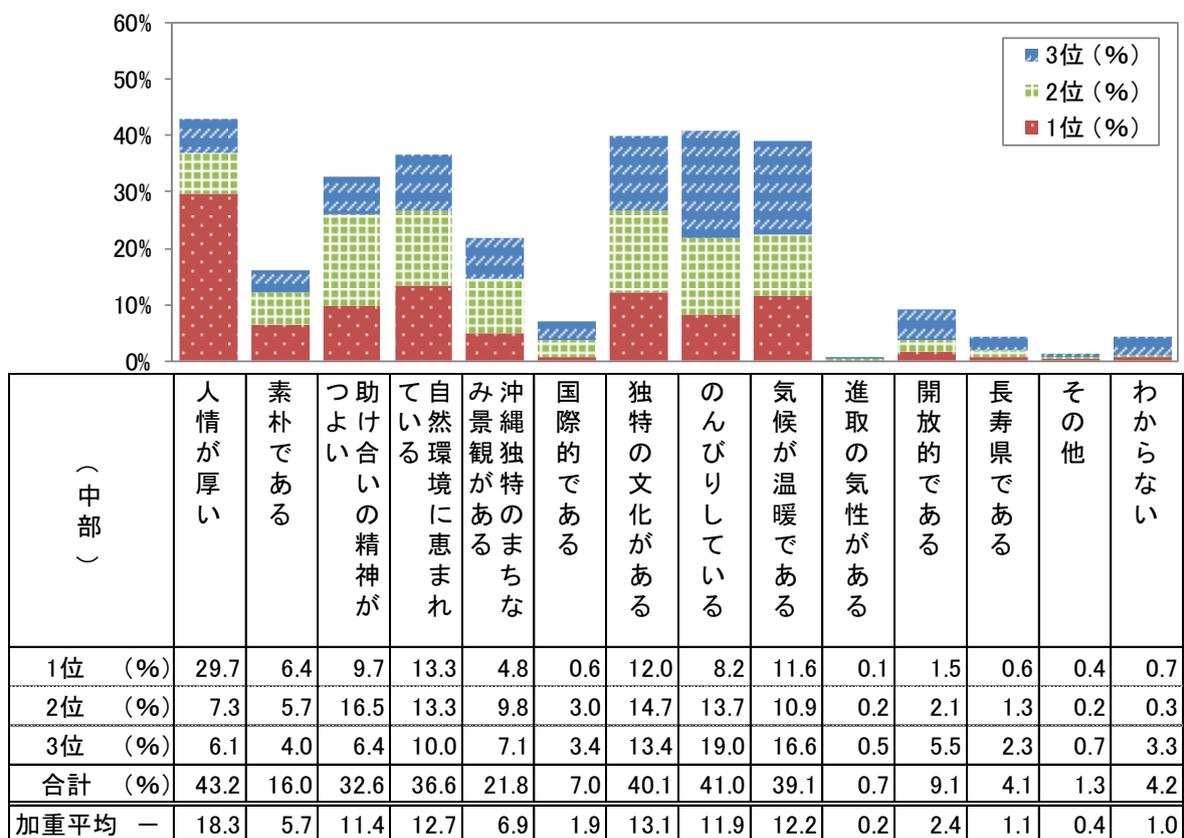
(%)	人情が厚い	素朴である	神助がつけ合いの精	ま自然環境に恵	あちなみ独特の景観が	沖縄独特の景観が	国際的である	あ独特の文化が	いのんびりして	あ気候が温暖で	あ進取の気性が	開放的である	長寿県である	その他
令和3	17.3	5.8	11.7	14.2	6.9	1.4	12.6	12.0	12.3	0.1	2.4	1.0	0.4	
平成30	19.7	6.3	11.4	11.6	5.1	1.5	11.9	12.9	11.2	0.3	2.1	1.4	0.4	
平成27	20.4	6.7	13.9	10.8	4.8	1.1	11.9	12.6	11.5	0.1	2.0	1.8	0.3	
平成24	20.3	7.3	12.4	7.7	4.3	1.0	12.5	13.3	12.8	0.4	2.3	2.4	0.3	
平成21	20.8	5.9	13.1	11.3	0.0	0.9	14.0	11.1	16.6	0.1	2.0	3.9	0.3	
平成16	23.2	6.2	12.6	9.7	0.0	1.2	13.0	11.6	16.1	0.2	1.8	4.2	0.1	
平成11	18.5	5.6	9.6	5.4	0.0	1.9	11.6	8.7	14.9	0.2	1.6	4.5	0.2	

## II 本調査の結果 第5章 日常生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-15 県(民)の長所(地域別 北部)

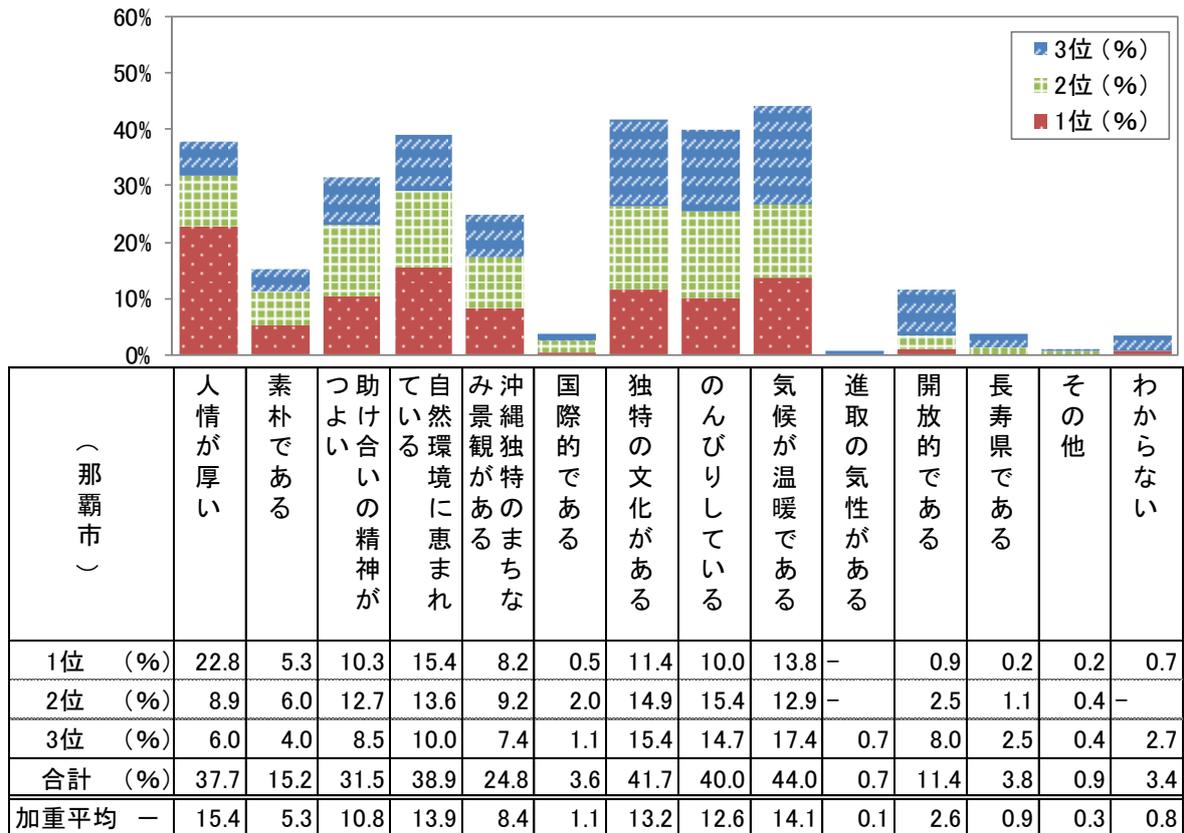


図表Ⅱ-5-16 県(民)の長所(地域別 中部)

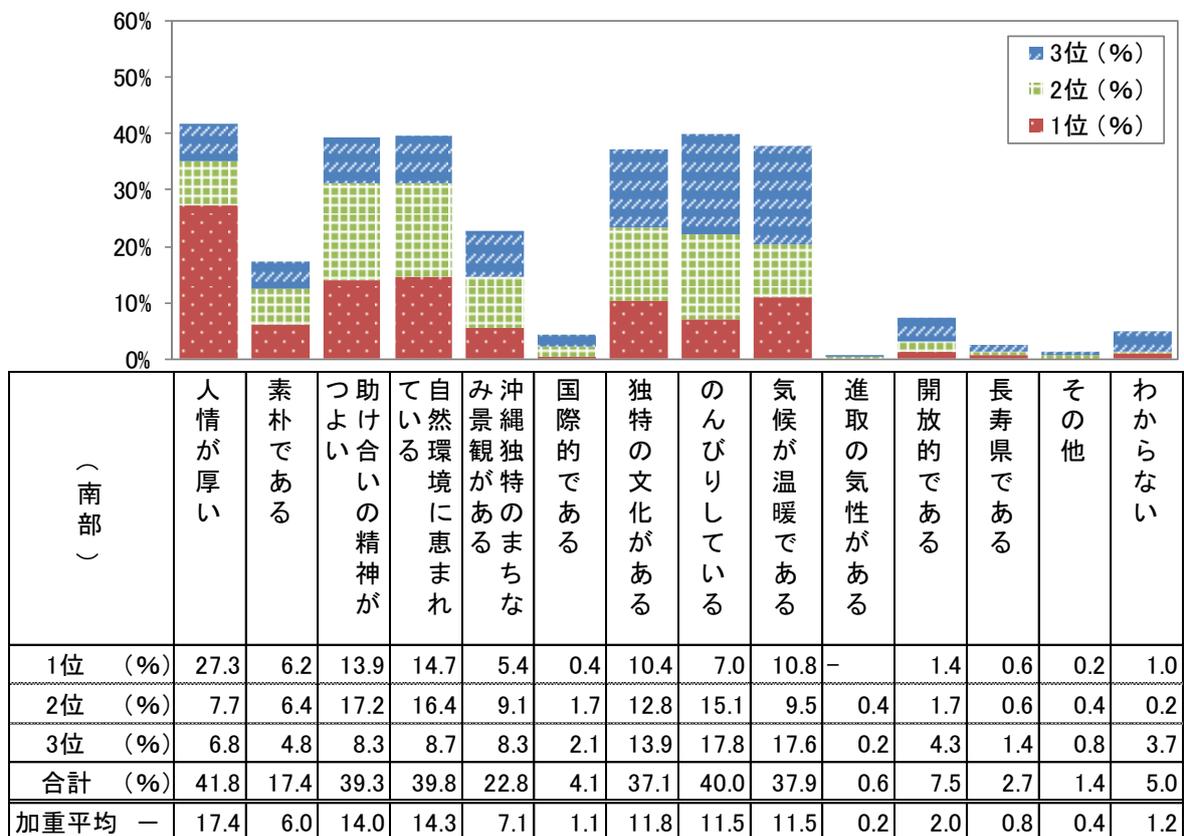


II 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-17 県(民)の長所(地域別 那覇市)

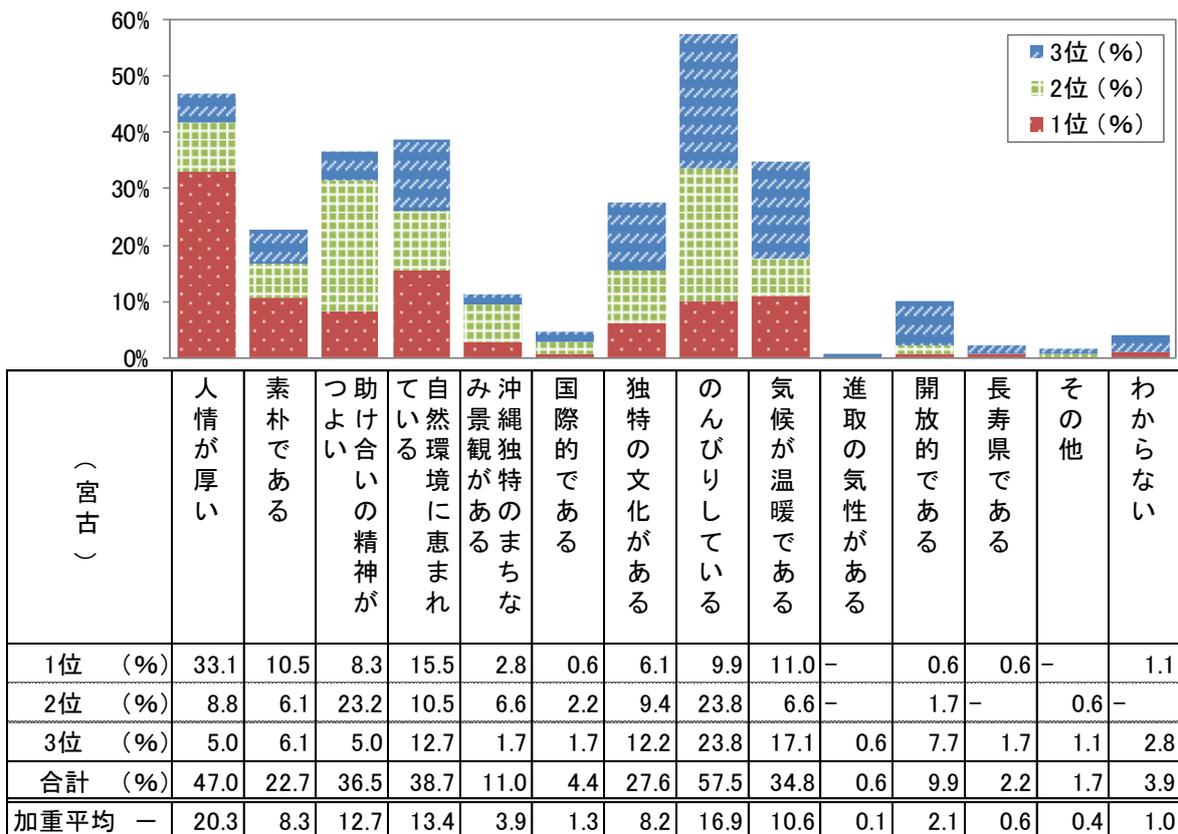


図表Ⅱ-5-18 県(民)の長所(地域別 南部)

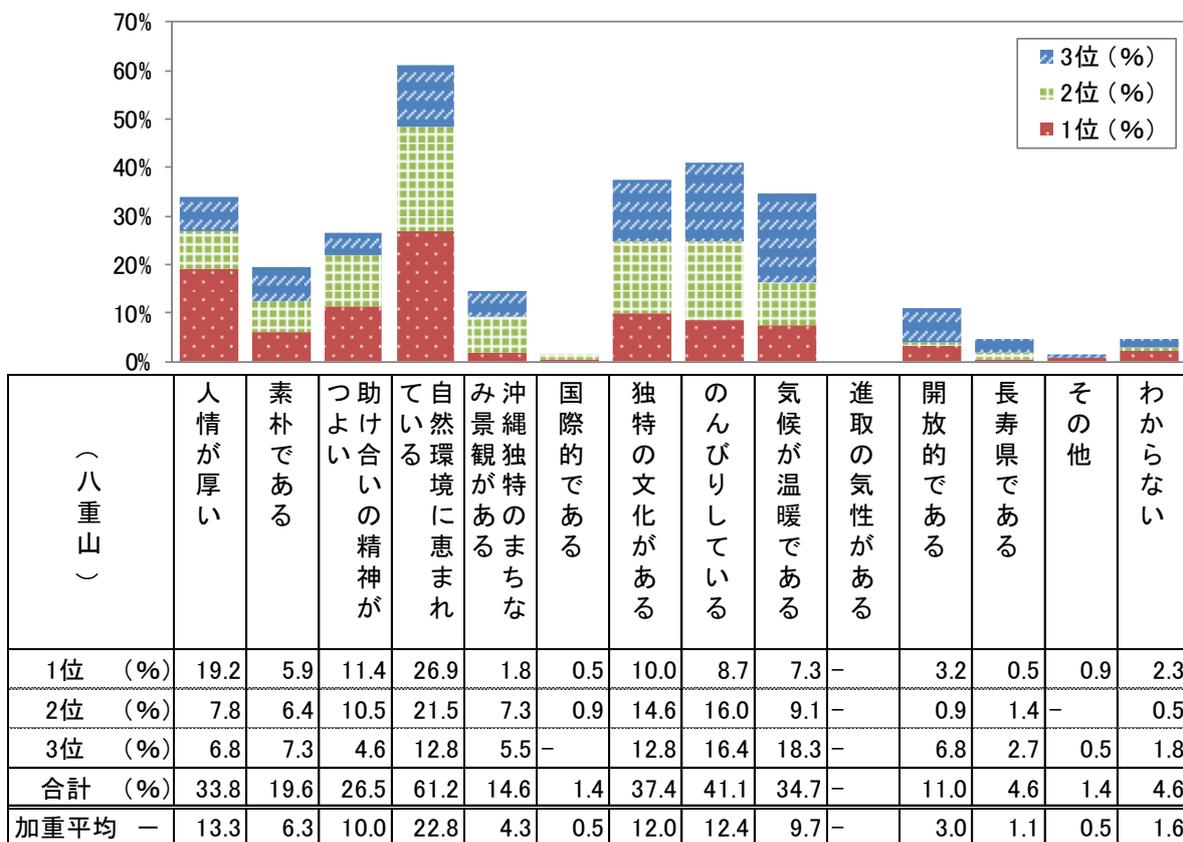


II 本調査の結果 第5章 日常生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-19 県(民)の長所(地域別 宮古)

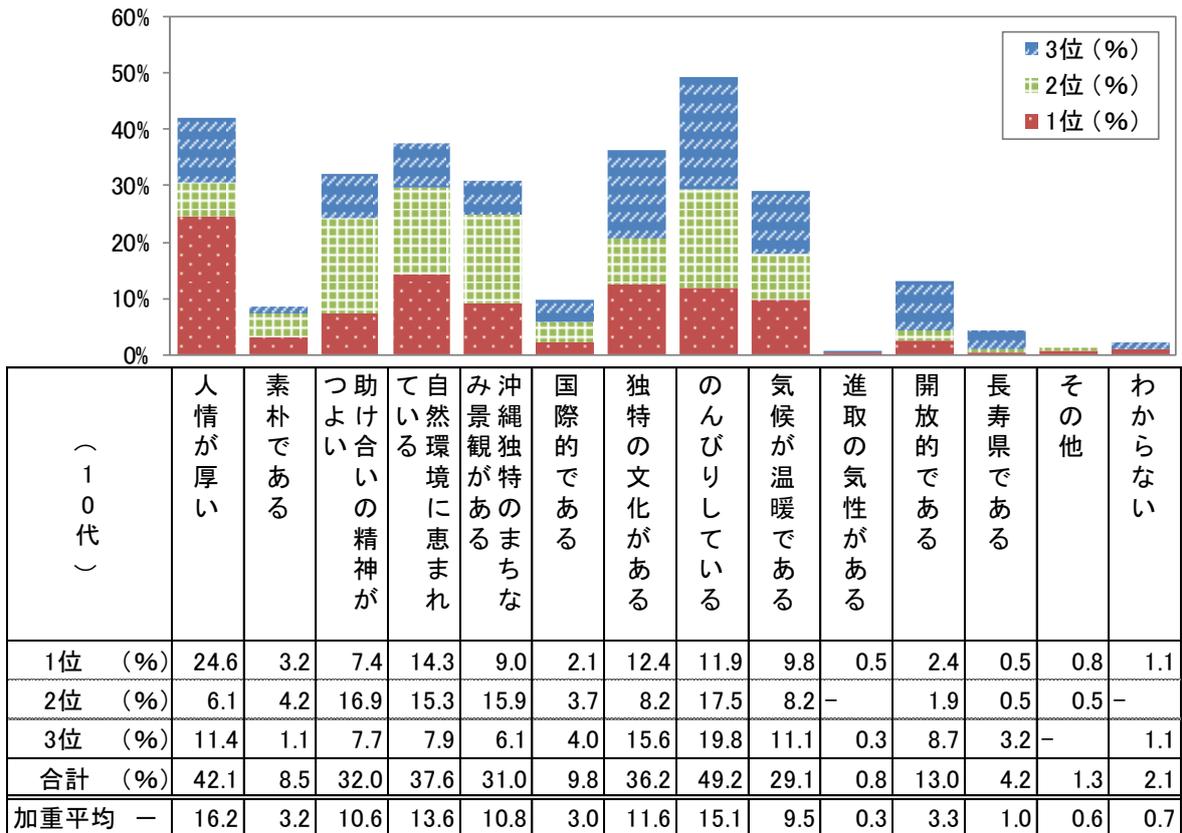


図表Ⅱ-5-20 県(民)の長所(地域別 八重山)

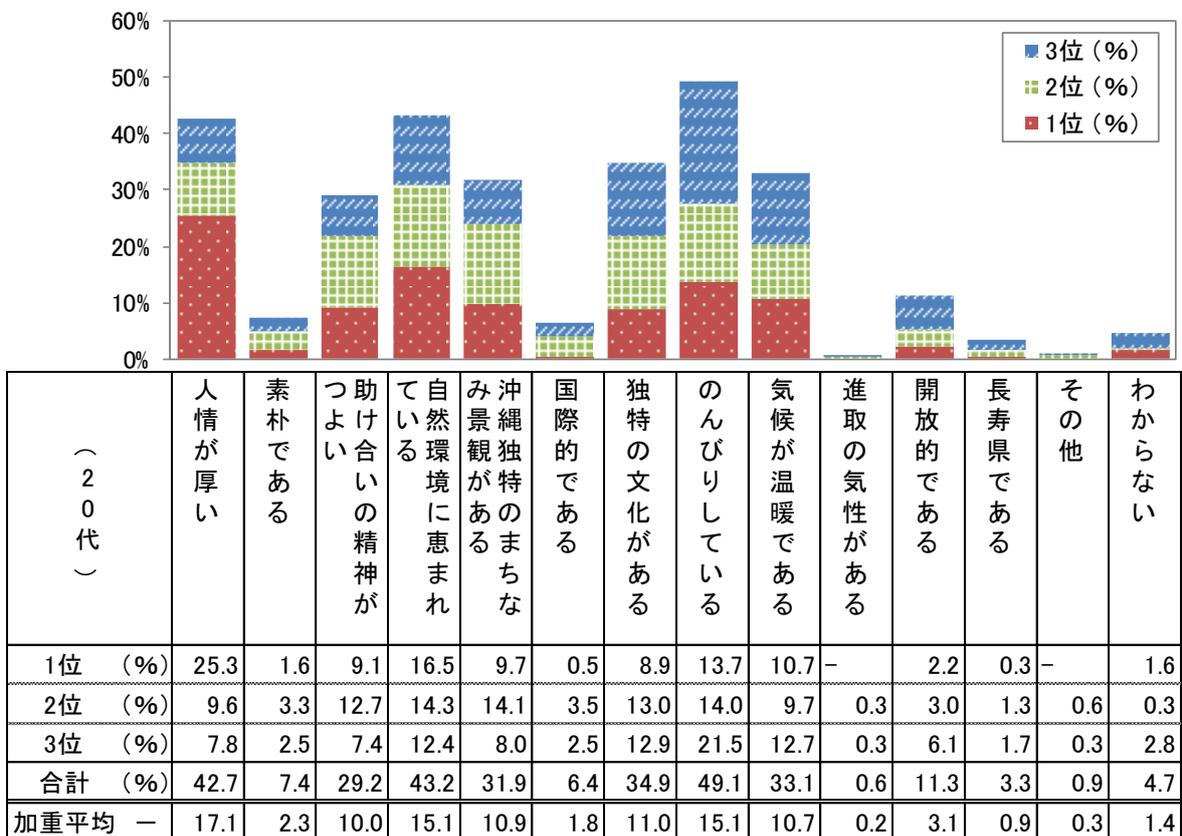


Ⅱ 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-21 県(民)の長所(年代別 10代)

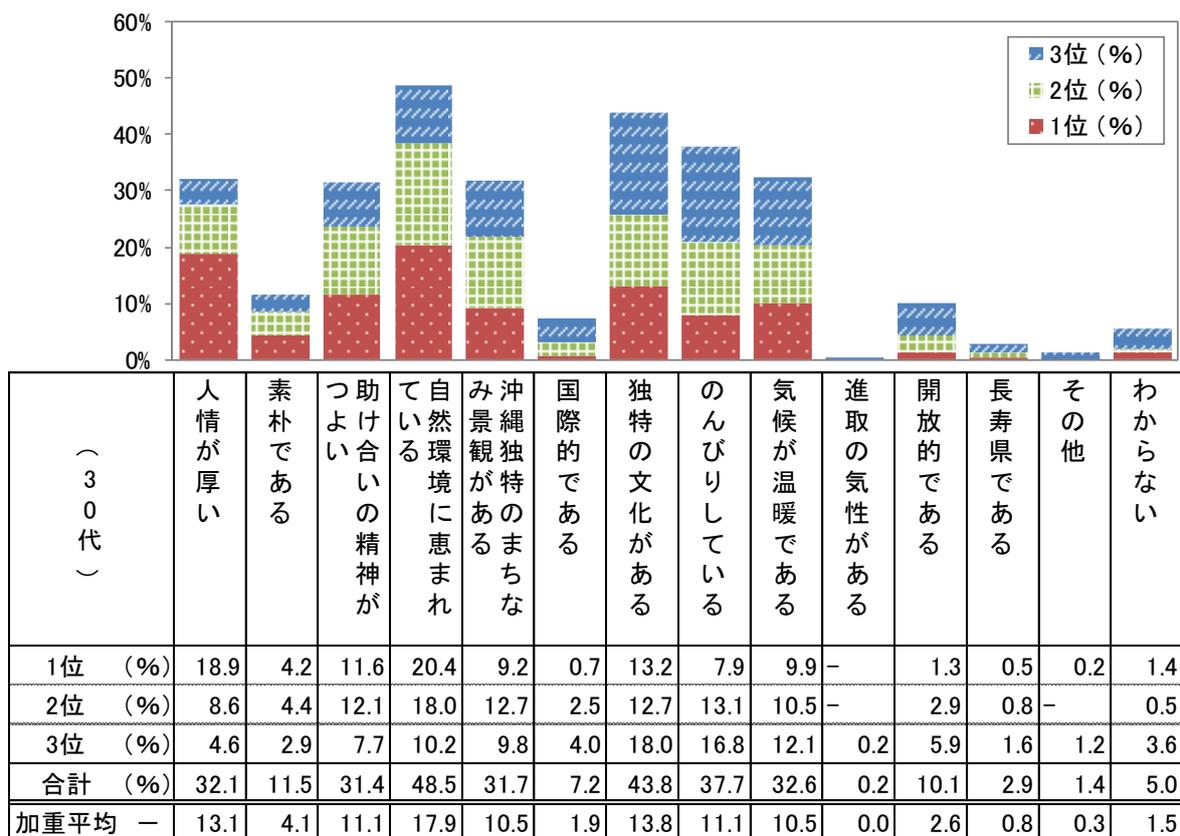


図表Ⅱ-5-22 県(民)の長所(年代別 20代)

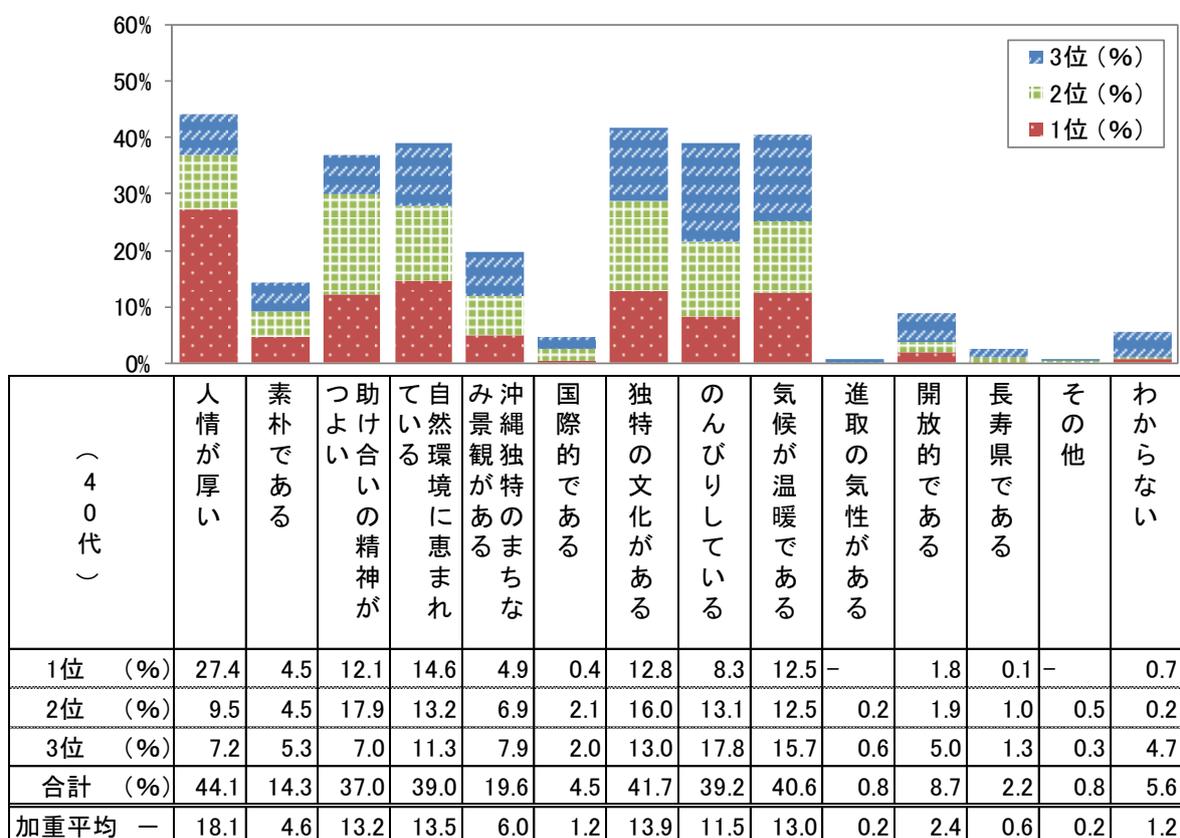


## II 本調査の結果 第5章 日常生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-23 県(民)の長所(年代別 30代)

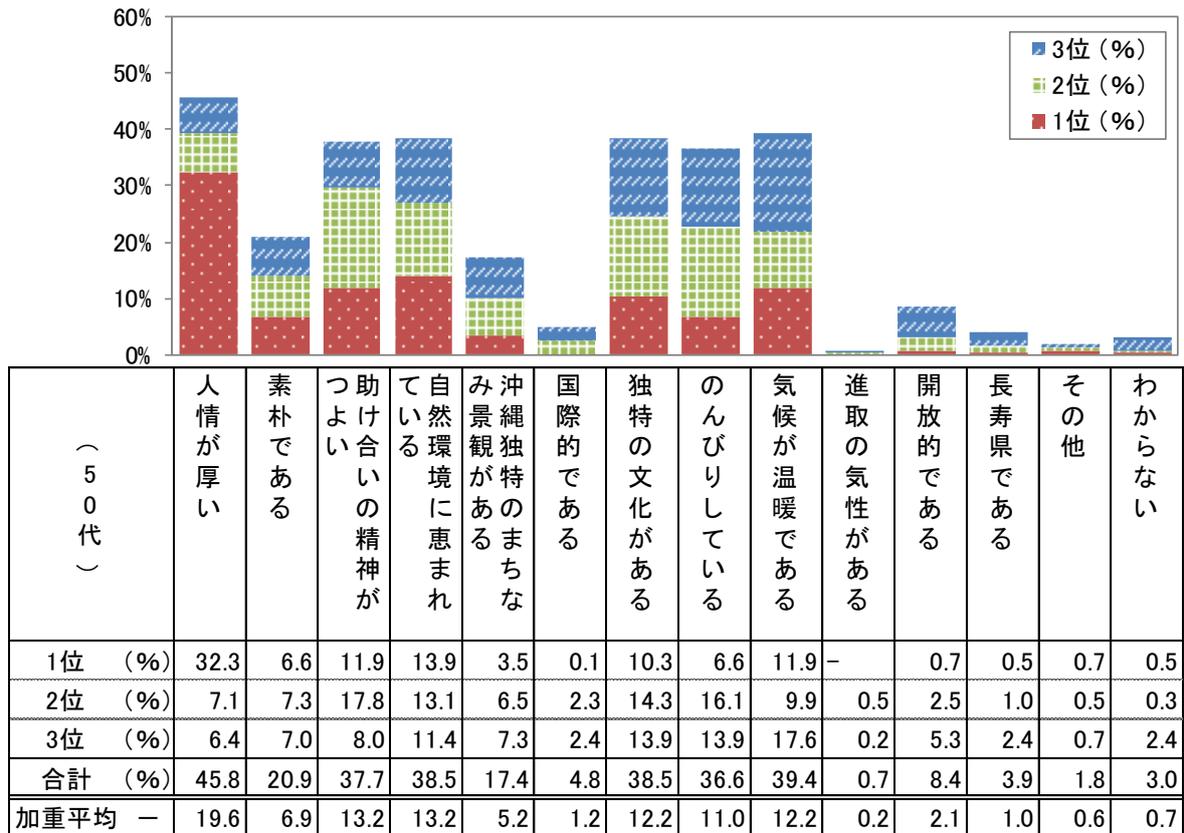


図表Ⅱ-5-24 県(民)の長所(年代別 40代)

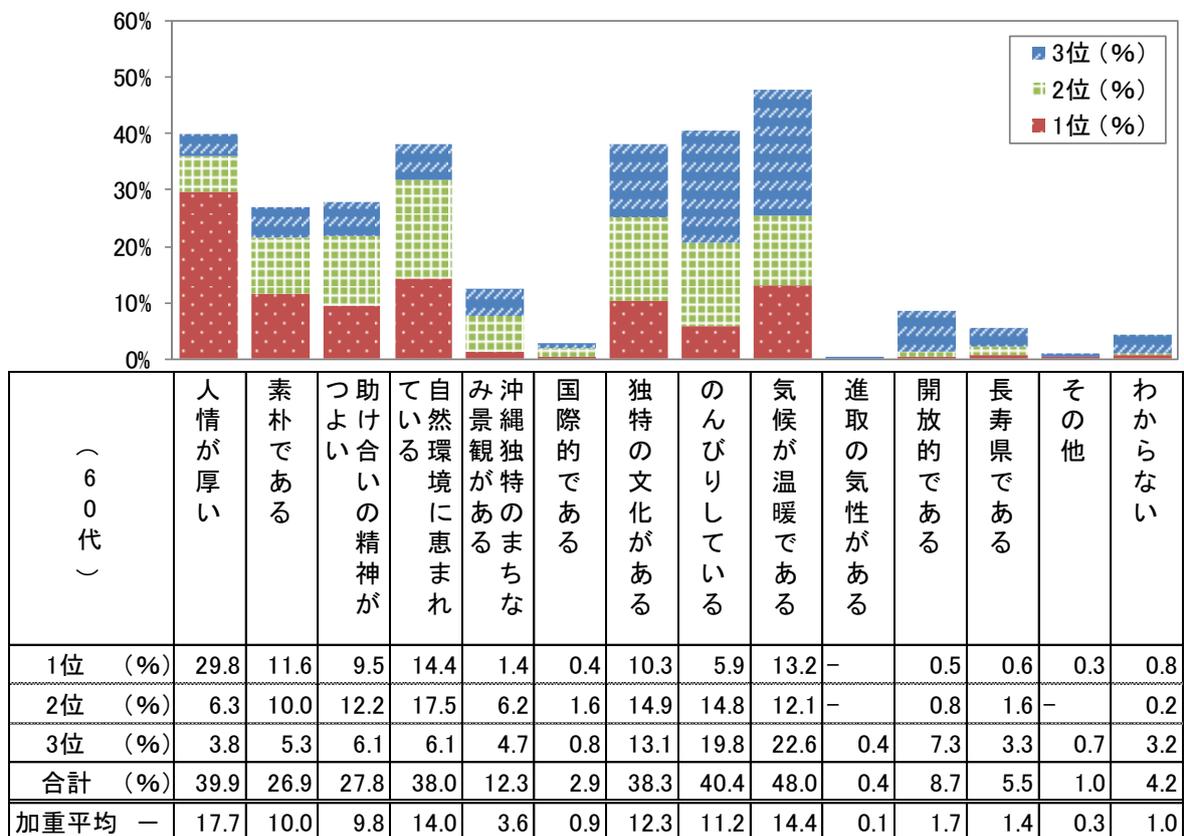


II 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-25 県(民)の長所(年代別 50代)

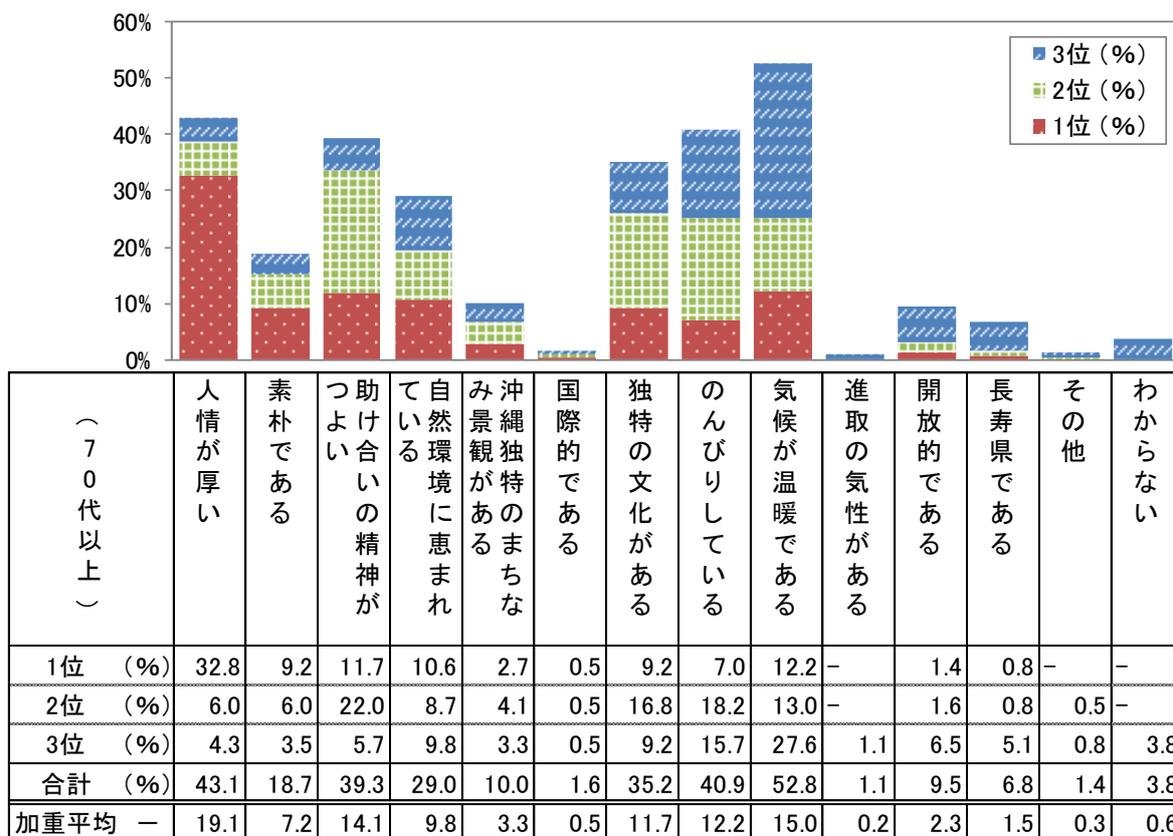


図表Ⅱ-5-26 県(民)の長所(年代別 60代)



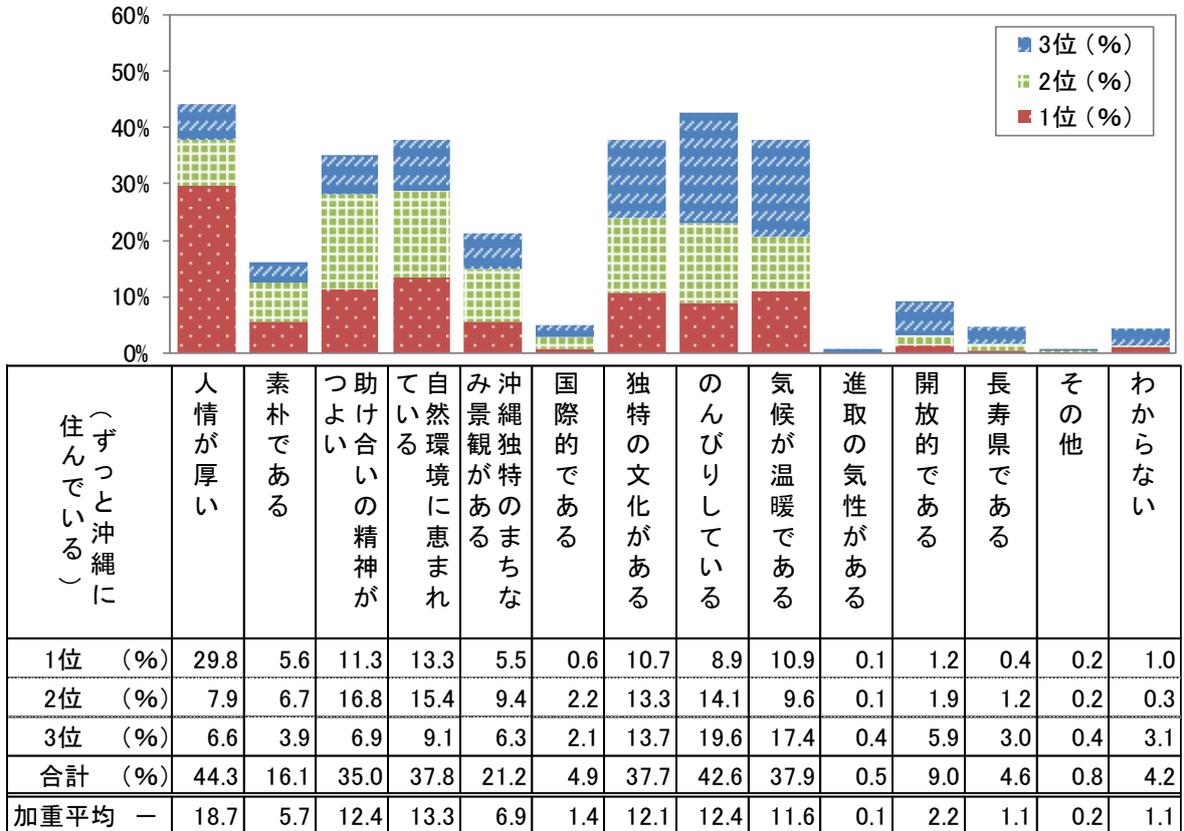
## II 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-27 県(民)の長所(年代別 70代以上)

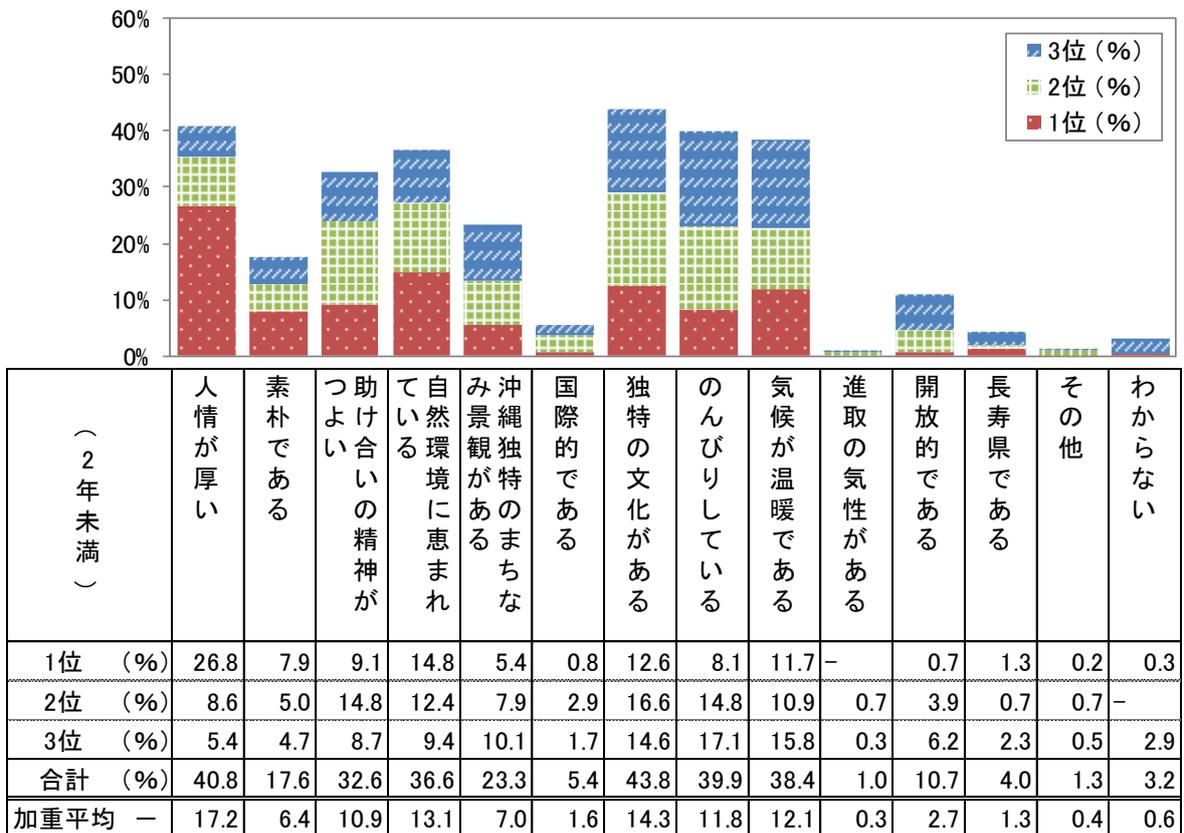


## II 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-28 県(民)の長所(県外居住経験別 ずっと沖縄に住んでいる)

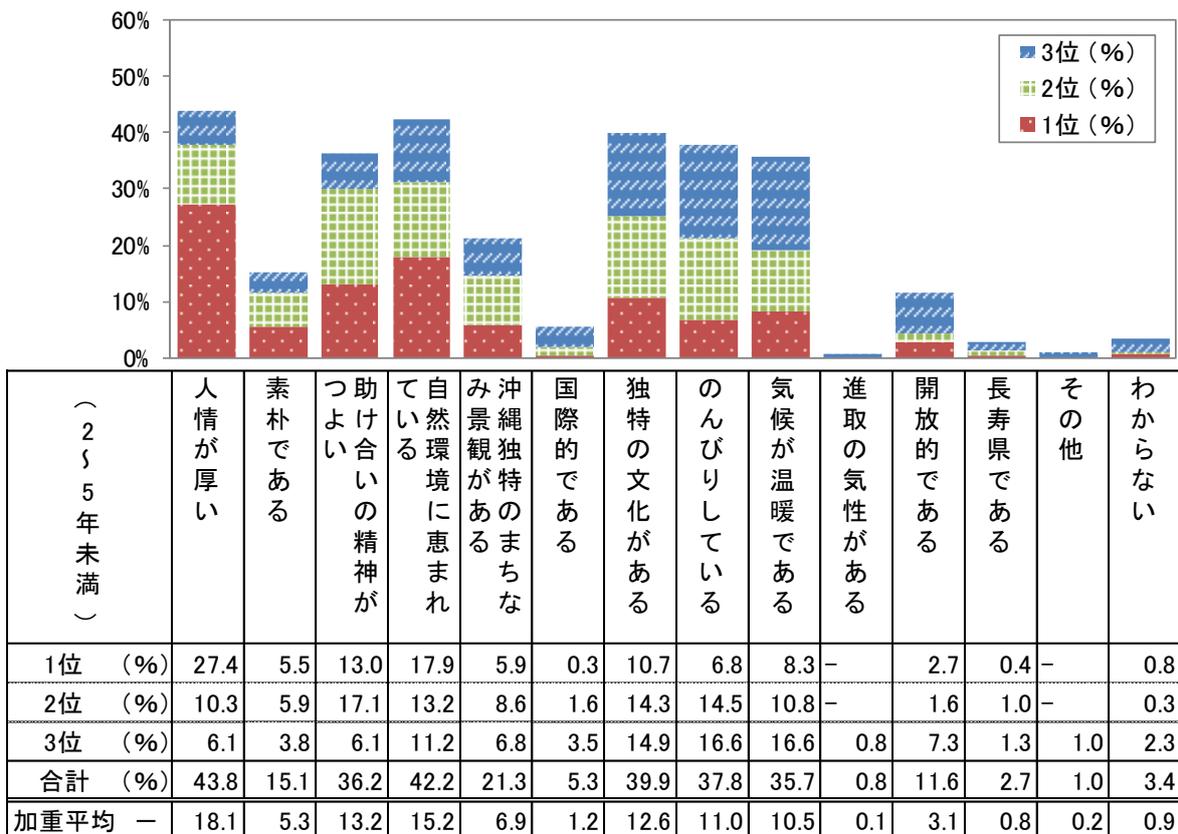


図表Ⅱ-5-29 県(民)の長所(県外居住経験別 2年未満)

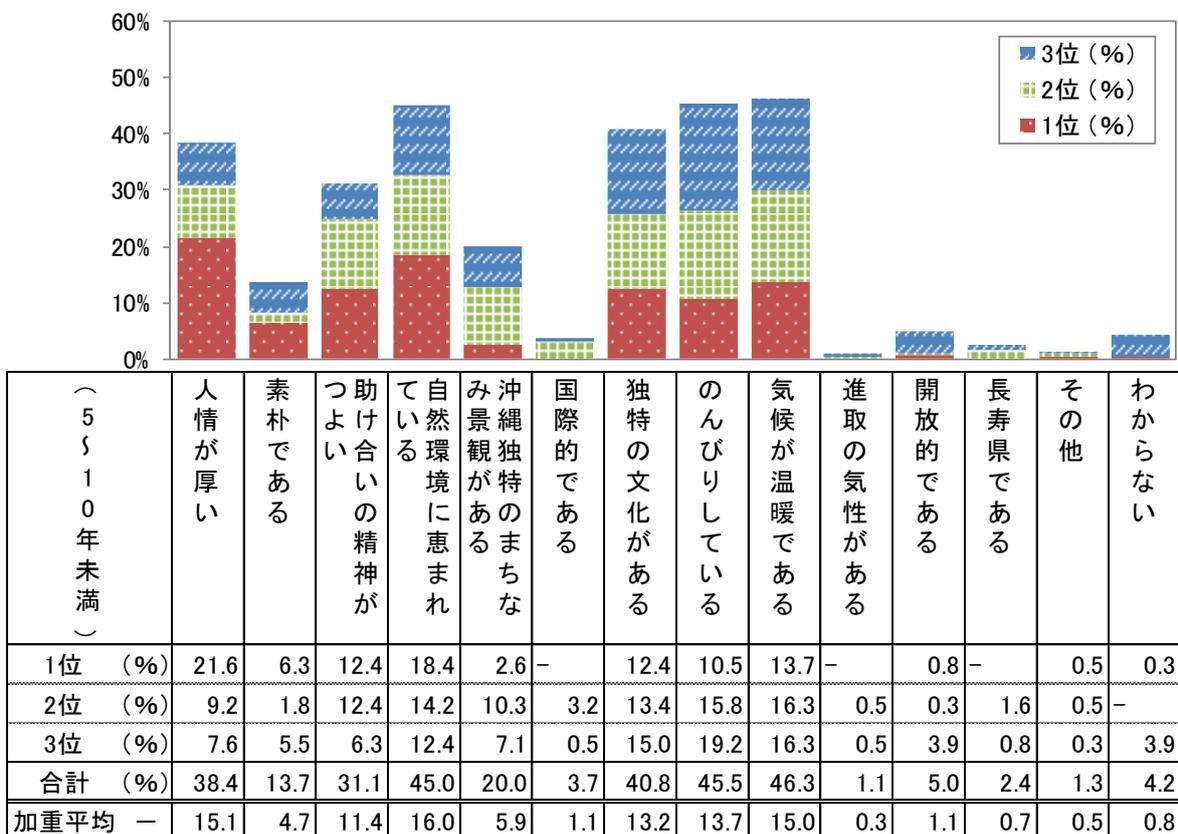


II 本調査の結果 第5章 日常生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-30 県(民)の長所(県外居住経験別 2年~5年未満)

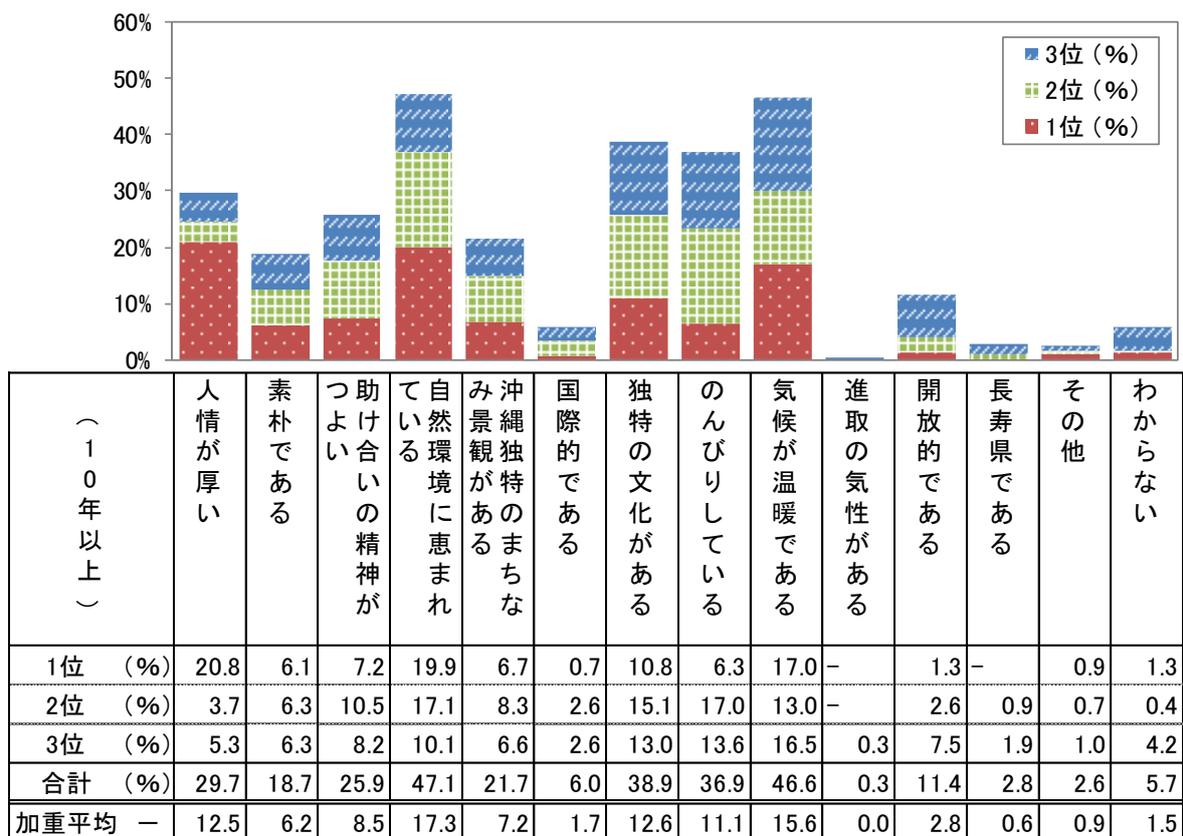


図表Ⅱ-5-31 県(民)の長所(県外居住経験別 5年~10年未満)



## Ⅱ 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-32 県(民)の長所(県外居住経験別 10年以上)



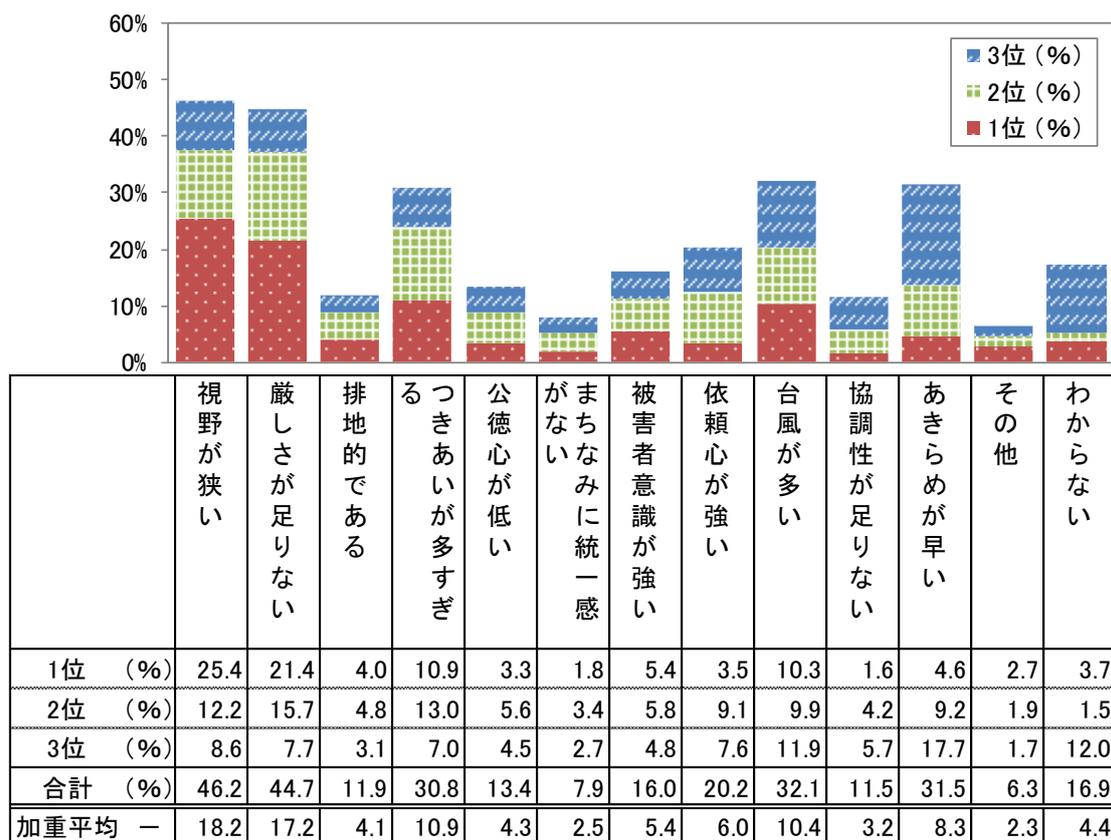
## II 本調査の結果 第5章 日常生活空間に対する認識

### (2) 県(民)の短所

本県あるいは県民の欠点について、12項目から優先順に1～3位の順位をつけて選んでもらったところ、1～3位の合計比率は「視野が狭い」(46.2%)の割合が最も高く、以下「厳しさが足りない」(44.7%)、「台風が多い」(32.1%)、「あきらめが早い」(31.5%)が上位となる。

加重平均の1位は「視野が狭い」(18.2ポイント)の割合が最も高く、2位は「厳しさが足りない」(17.2ポイント)、3位は「つきあいが多すぎる」(10.9ポイント)となる。

図表Ⅱ-5-33 県(民)の短所(全体・1～3位順位づけ比率)



## II 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

加重平均により過去の調査と比較すると、平成24年以降「排他的である」「つきあいが多すぎる」がやや上昇している。平成21年以降「厳しさが足りない」が減少しているが、令和3年の割合がやや上昇している。

地域別にみると、1～3位の合計比率は宮古以外の地域で「視野が狭い」「厳しさが足りない」の割合が高い。宮古は「つきあいが多すぎる」、「台風が多い」の割合が他地域よりも高くなっている。

年代別にみると、10代～30代、50代が「視野が狭い」の割合が最も高く、40代、60代、70代以上が「厳しさが足りない」の割合が高くなっている。

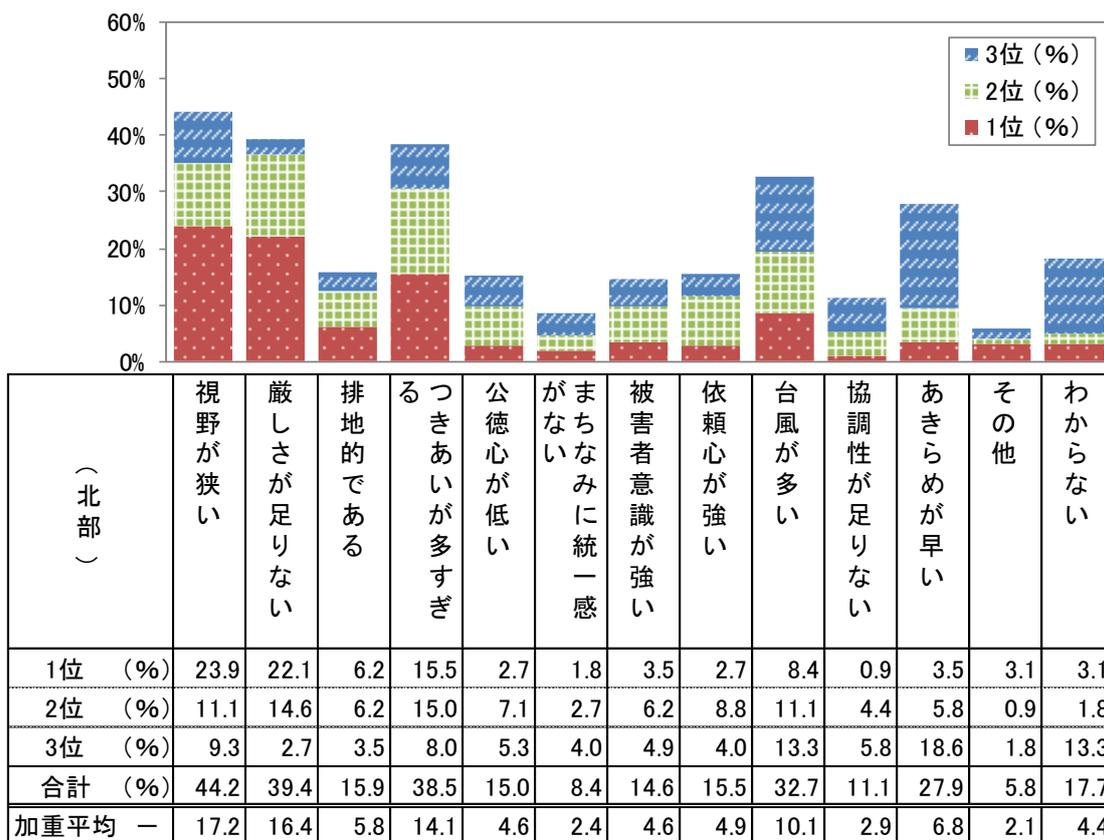
県外居住経験別にみると、県外居住の経験年数にかかわらず、「視野が狭い」、「厳しさが足りない」の割合が比較的高くなっている。

図表Ⅱ-5-34 県（民）の短所（時系列比較・加重平均）

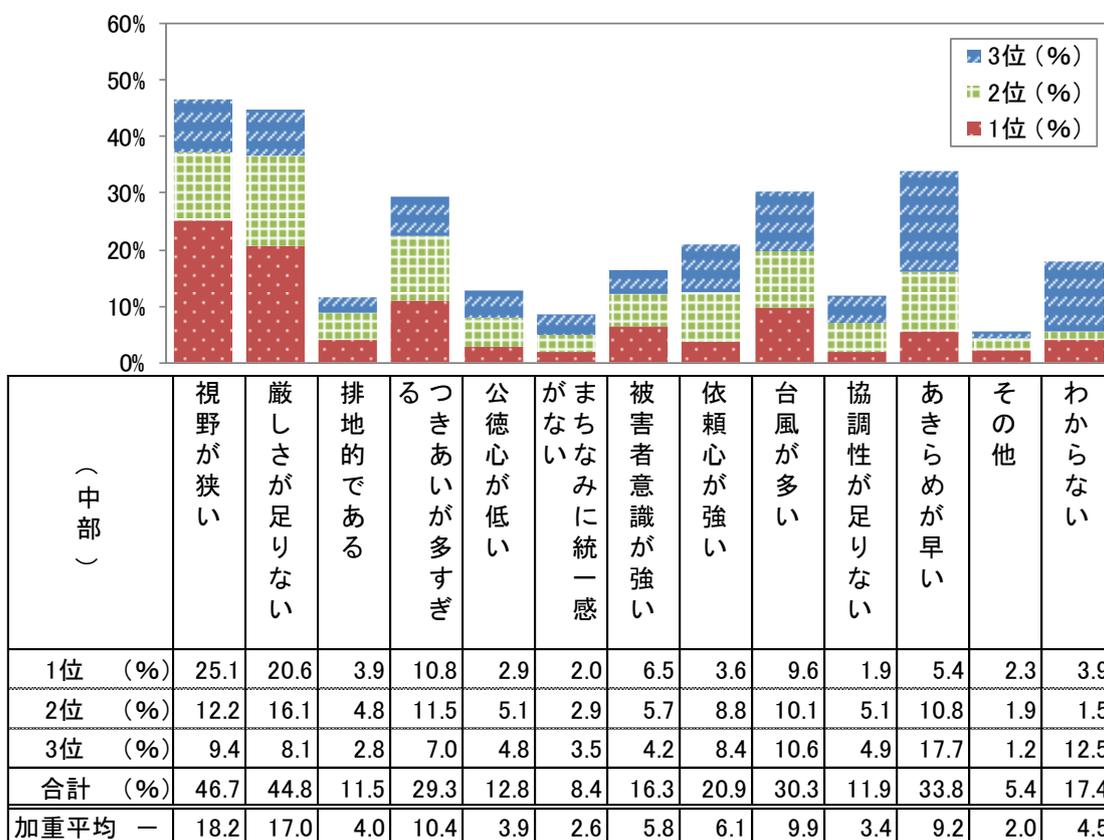
(%)	視野が狭い	厳しさが足りない	排他的である	つきあいが多すぎる	公德心が低い	一まちなみに統一感がない	強い被害者意識がある	依頼心が強い	台風が多い	協調性が足りない	いきなりめが早い	その他
令和3	18.2	17.2	4.1	10.9	4.3	2.5	5.4	6.0	10.4	3.2	8.3	2.3
平成30	17.8	16.5	3.6	10.6	4.2	2.2	5.4	5.7	10.7	2.9	7.9	2.1
平成27	16.4	19.9	2.7	9.5	4.2	3.1	5.4	6.1	12.9	3.4	8.0	1.2
平成24	16.7	20.7	2.6	9.3	4.2	2.5	3.5	6.2	13.0	3.4	8.8	1.6
平成21	17.8	23.2	2.7	13.1	6.8	0.0	3.8	7.4	7.4	4.6	9.2	1.6
平成16	16.0	22.9	2.5	12.7	6.7	0.0	4.0	7.3	13.4	3.5	7.9	0.9
平成11	14.5	15.9	2.0	9.7	5.8	0.0	3.9	5.1	7.9	3.1	5.5	0.9

II 本調査の結果 第5章 日常生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-35 県(民)の短所(地域別 北部)

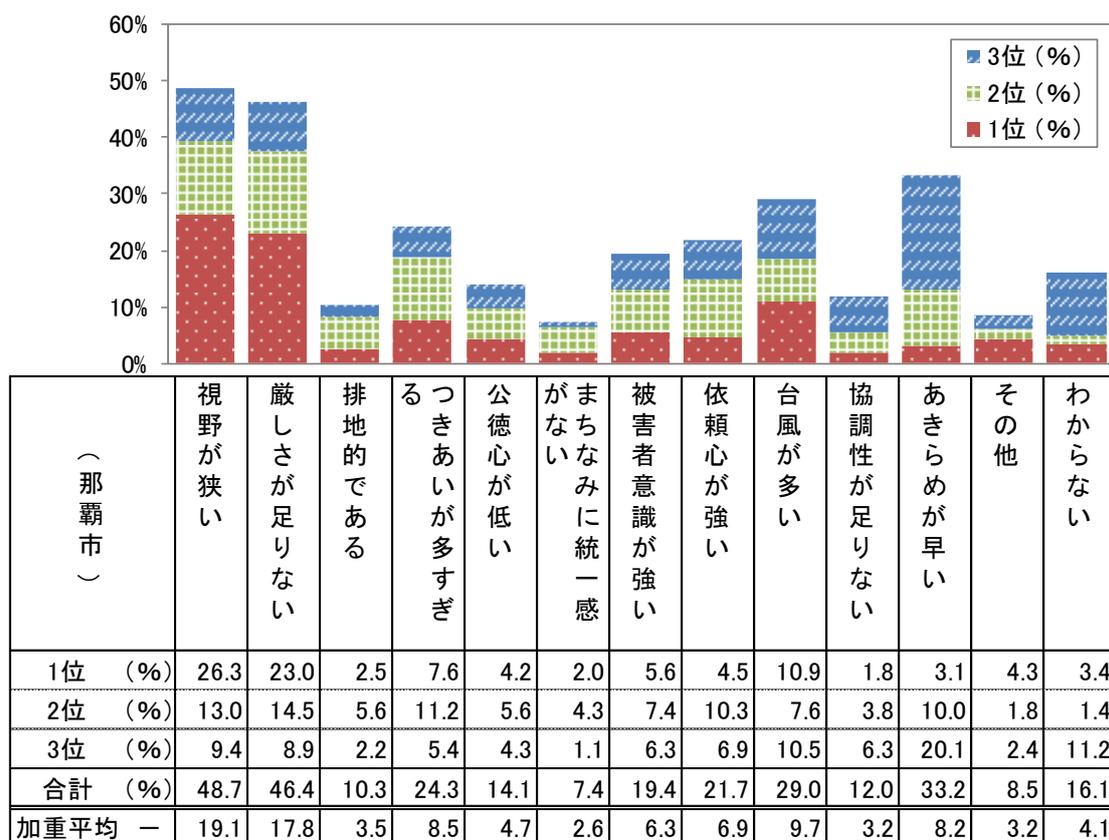


図表Ⅱ-5-36 県(民)の短所(地域別 中部)

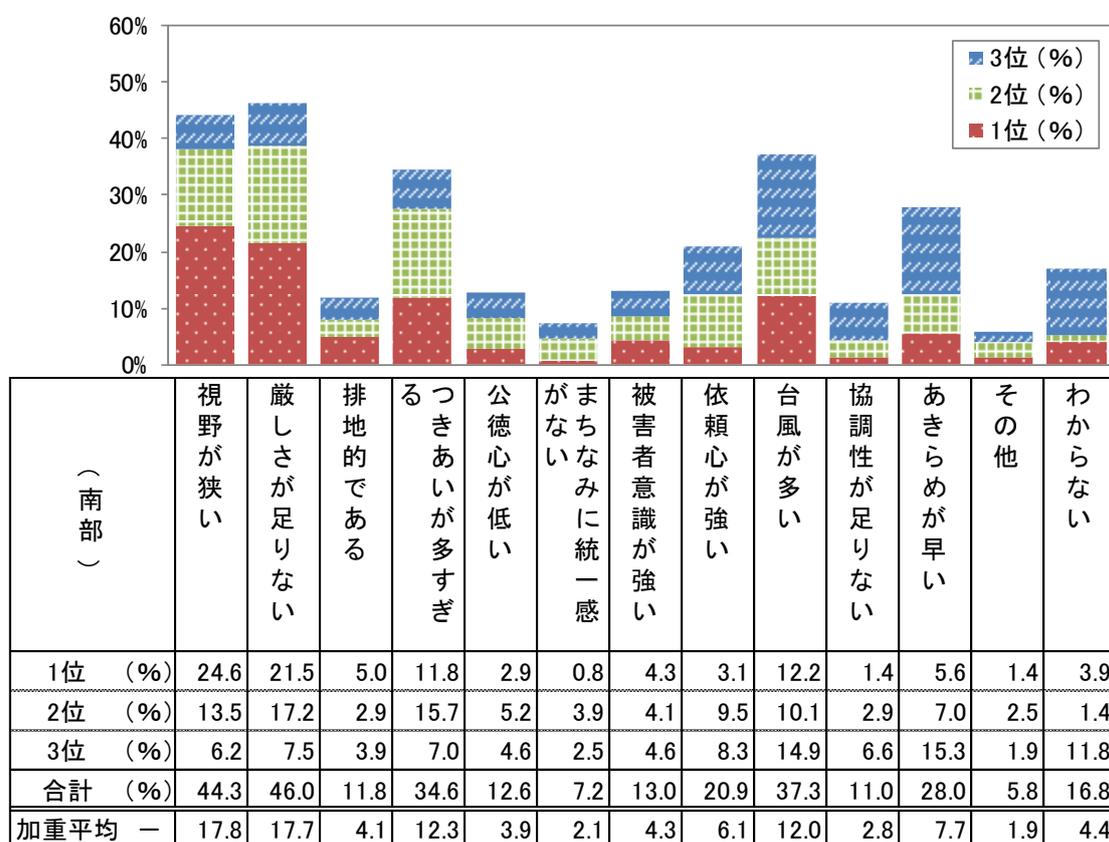


## Ⅱ 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-37 県(民)の短所(地域別 那覇市)

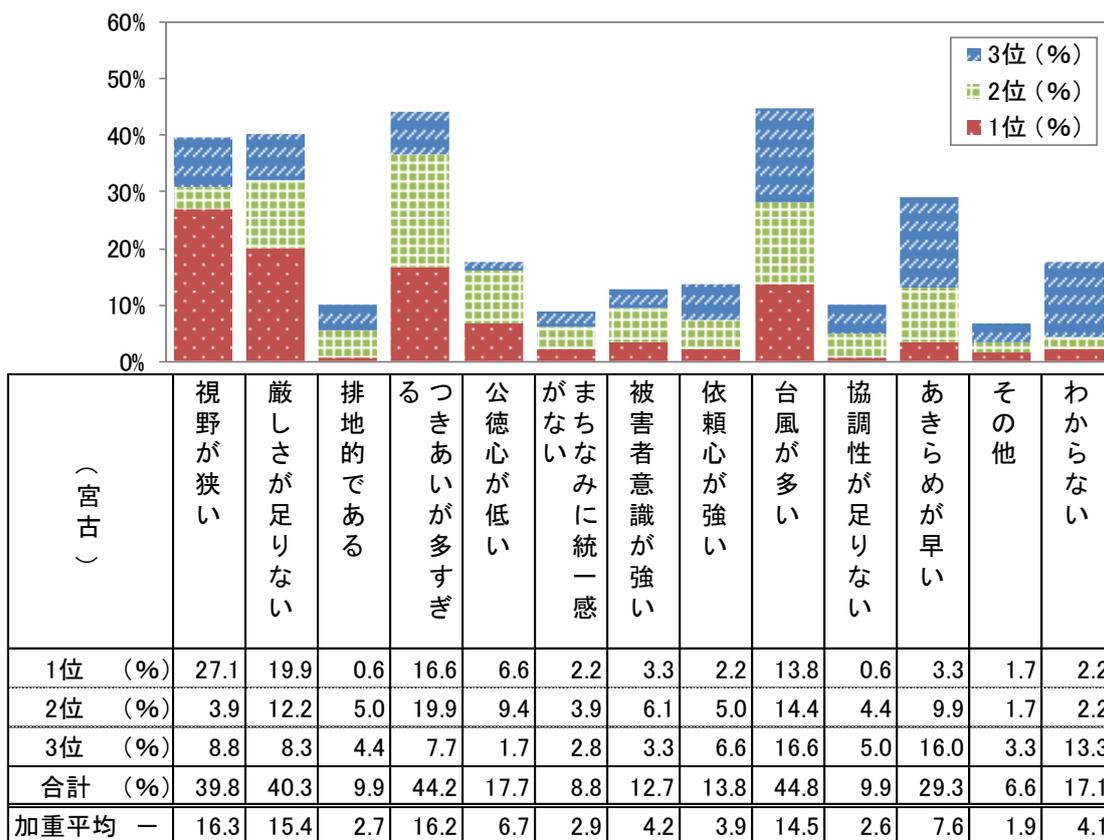


図表Ⅱ-5-38 県(民)の短所(地域別 南部)

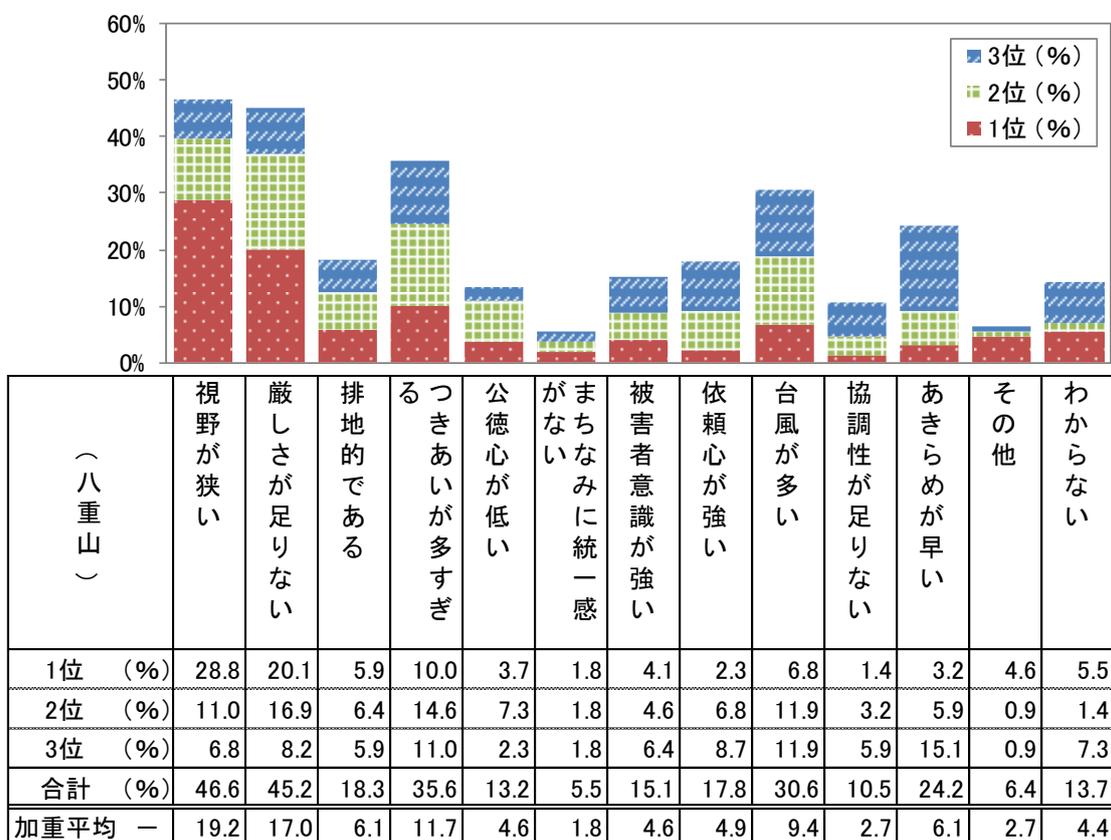


II 本調査の結果 第5章 日常生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-39 県(民)の短所(地域別 宮古)

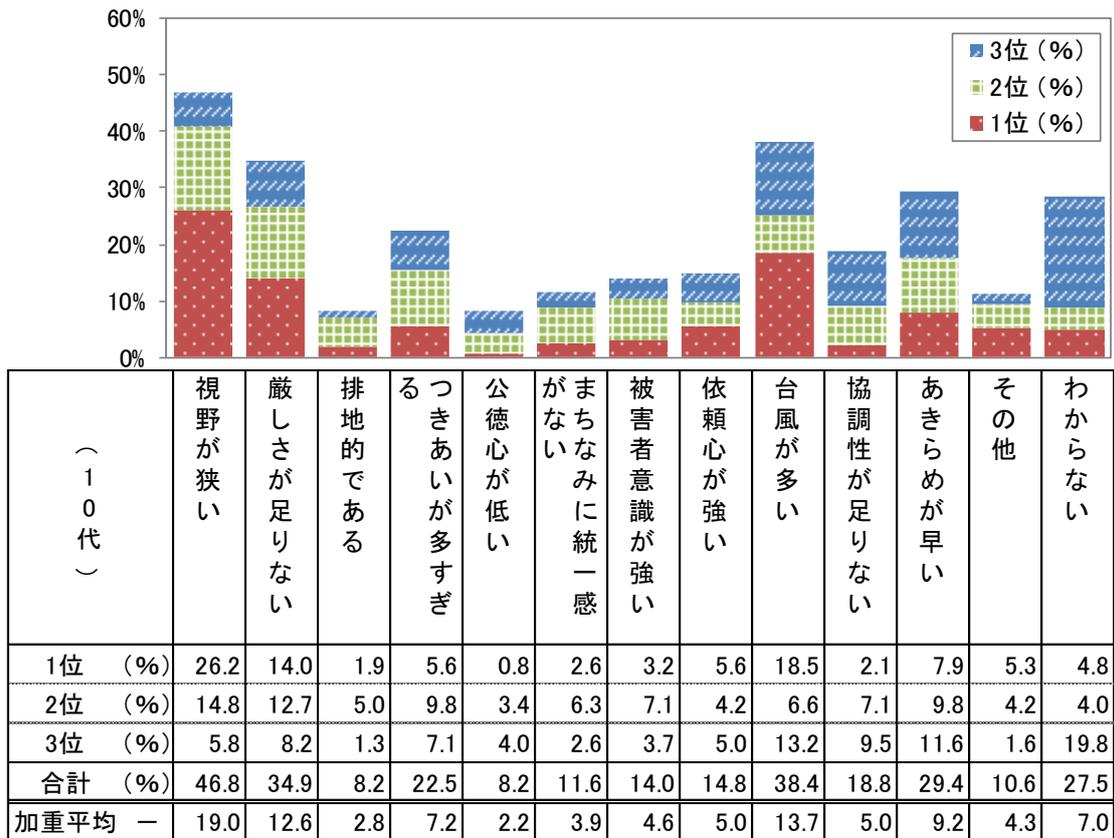


図表Ⅱ-5-40 県(民)の短所(地域別 八重山)

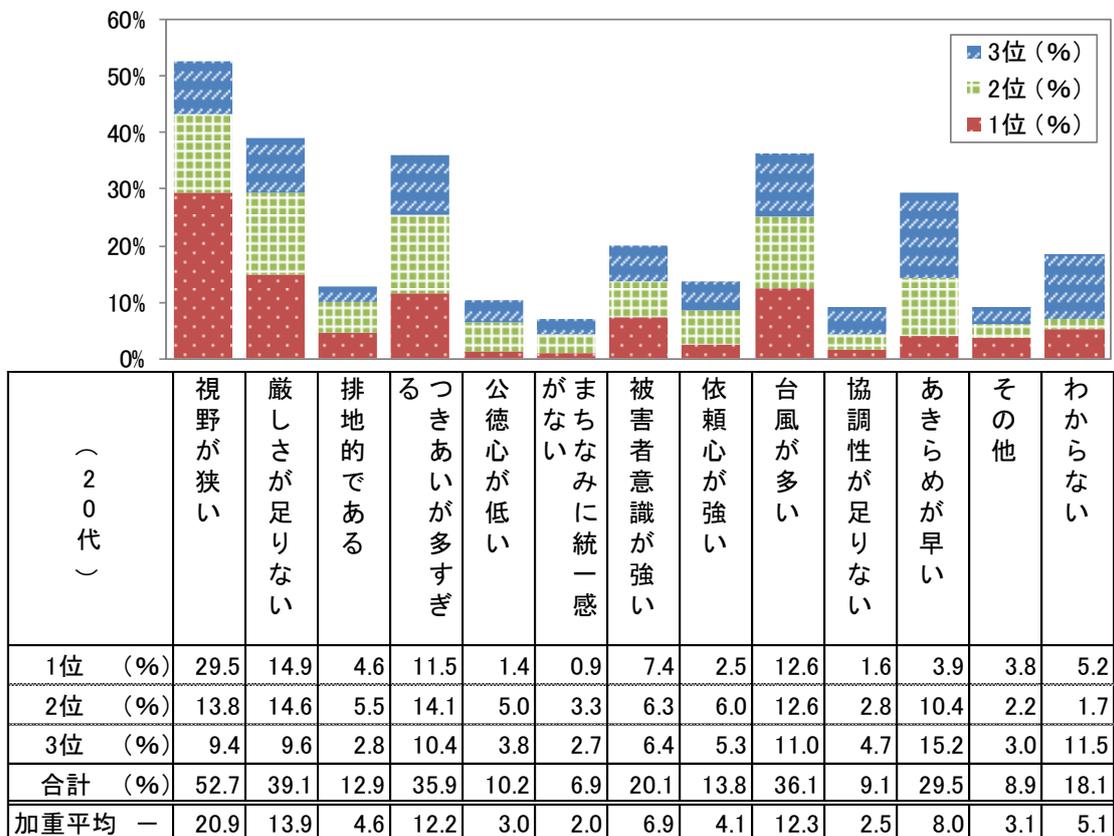


## Ⅱ 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-41 県(民)の短所(年代別 10代)

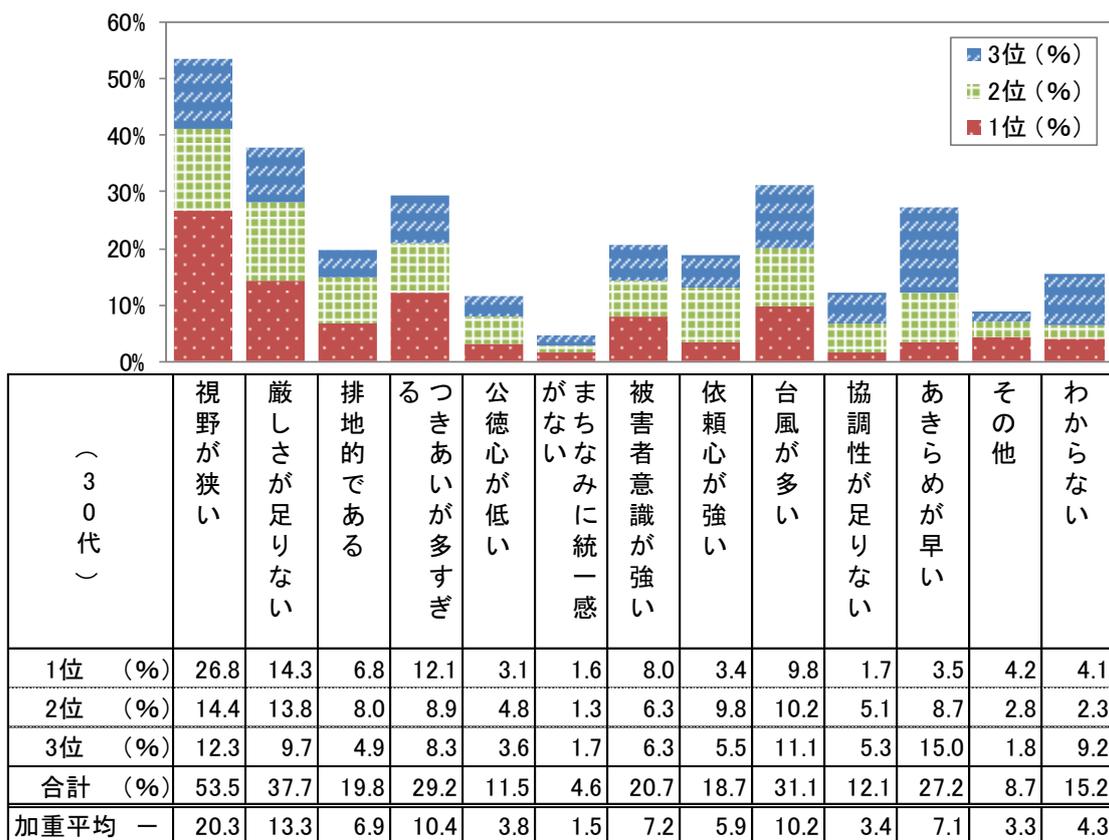


図表Ⅱ-5-42 県(民)の短所(年代別 20代)

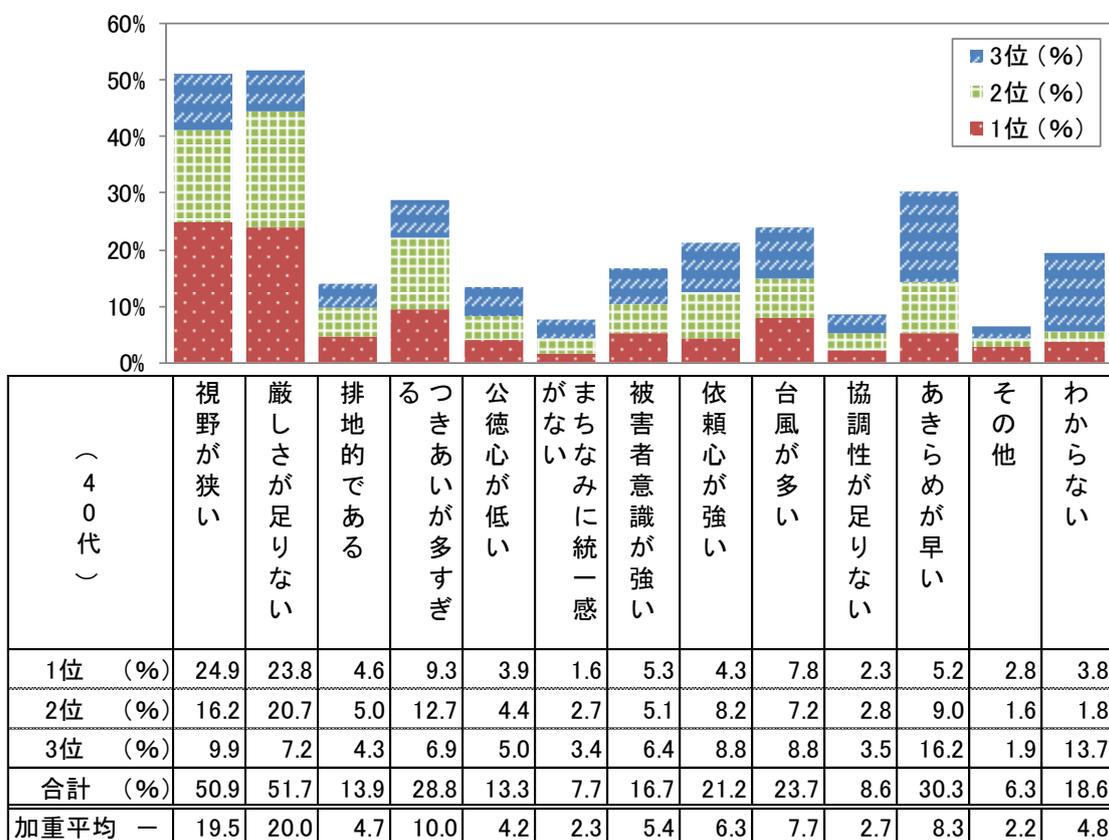


## II 本調査の結果 第5章 日常生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-43 県(民)の短所(年代別 30代)

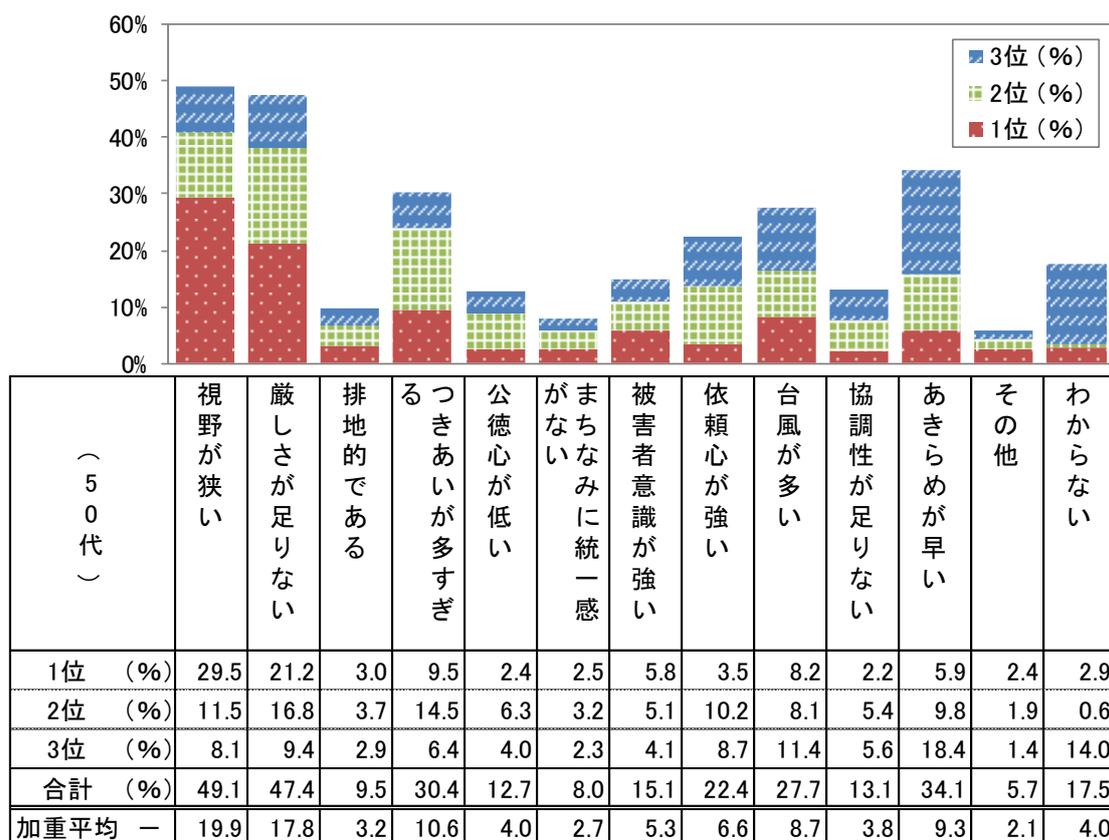


図表Ⅱ-5-44 県(民)の短所(年代別 40代)

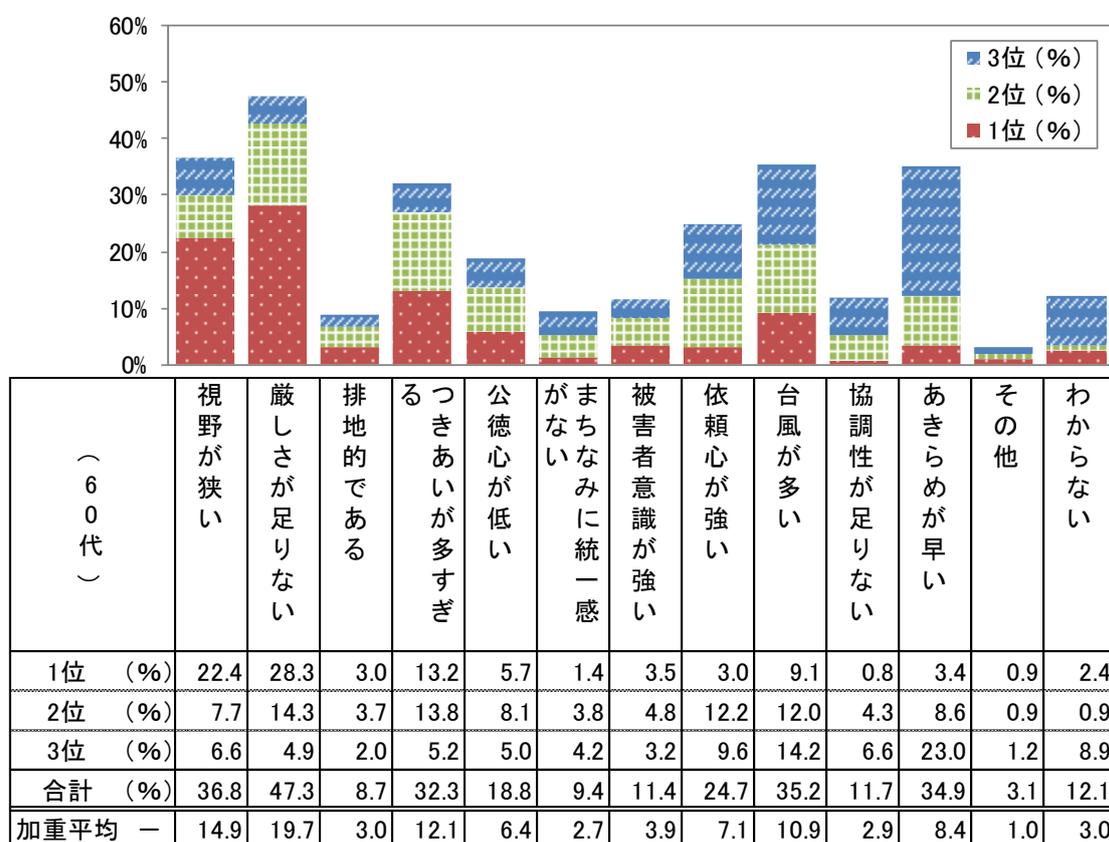


## Ⅱ 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-45 県(民)の短所(年代別 50代)

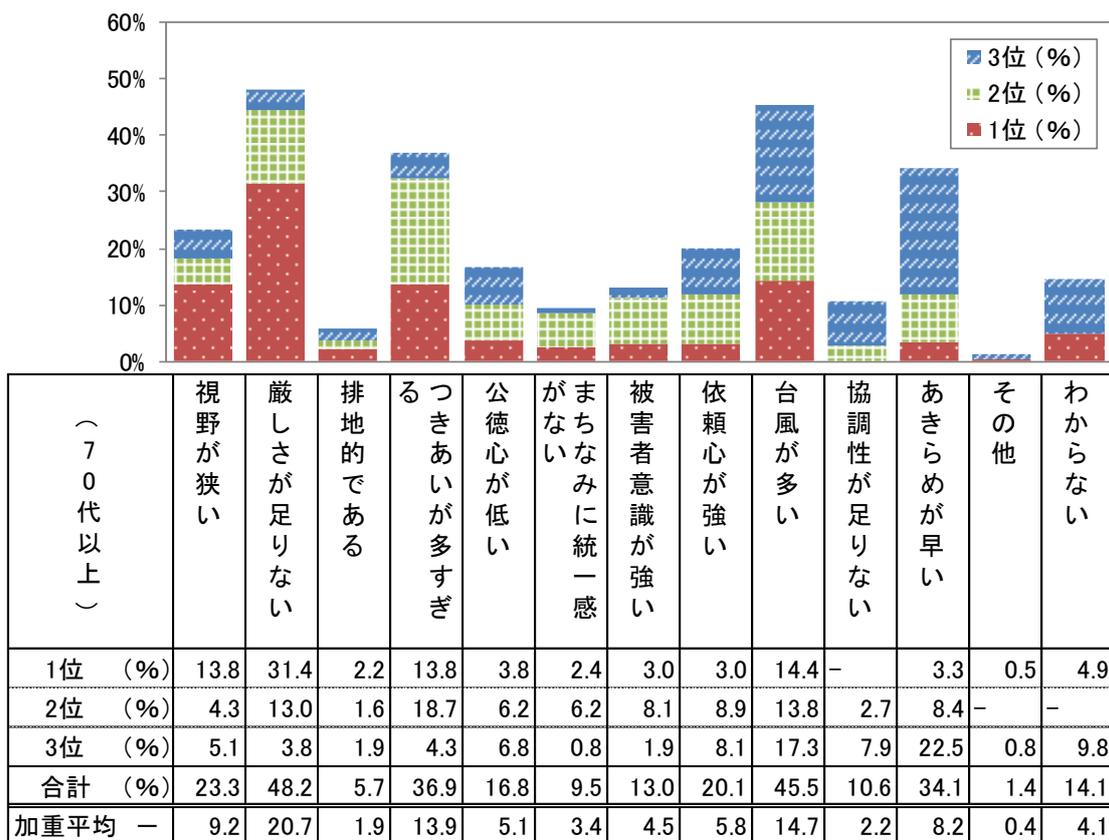


図表Ⅱ-5-46 県(民)の短所(年代別 60代)



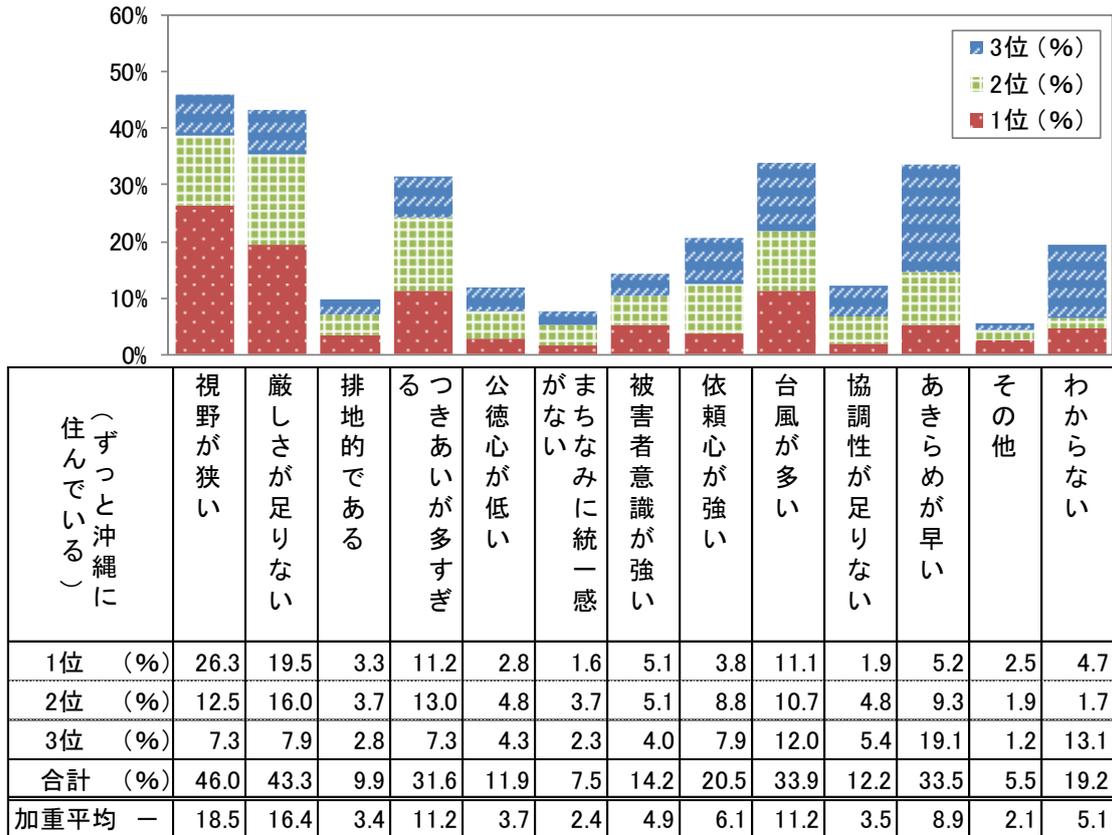
## II 本調査の結果 第5章 日常生活空間に対する認識

図表II-5-47 県(民)の短所(年代別 70代以上)

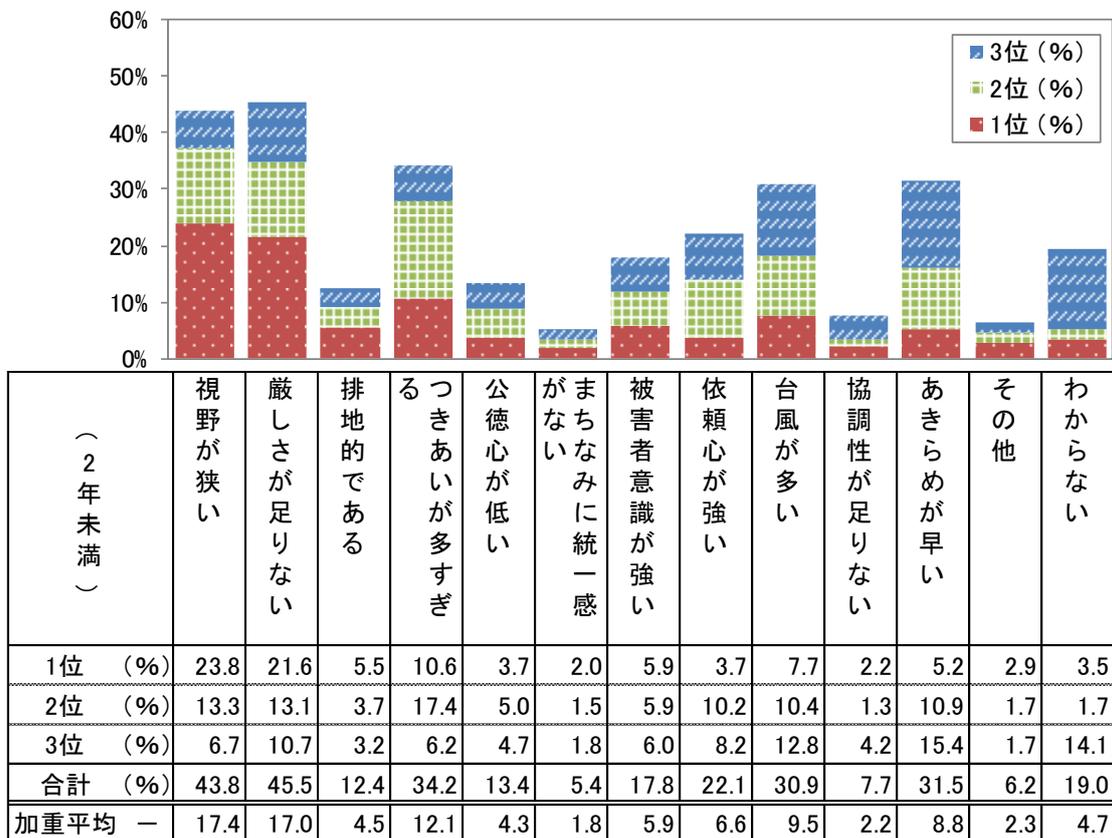


## II 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-48 県（民）の短所（県外居住経験別 ずっと沖縄に住んでいる）

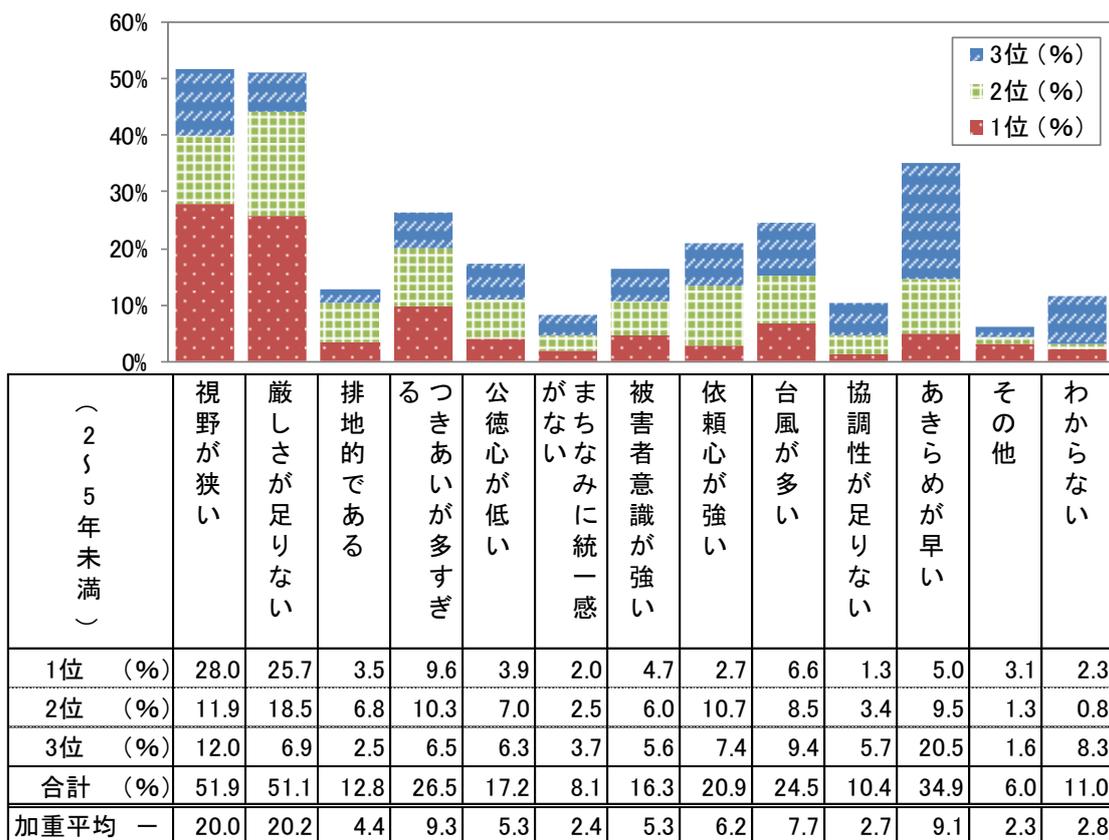


図表Ⅱ-5-49 県（民）の短所（県外居住経験別 2年未満）

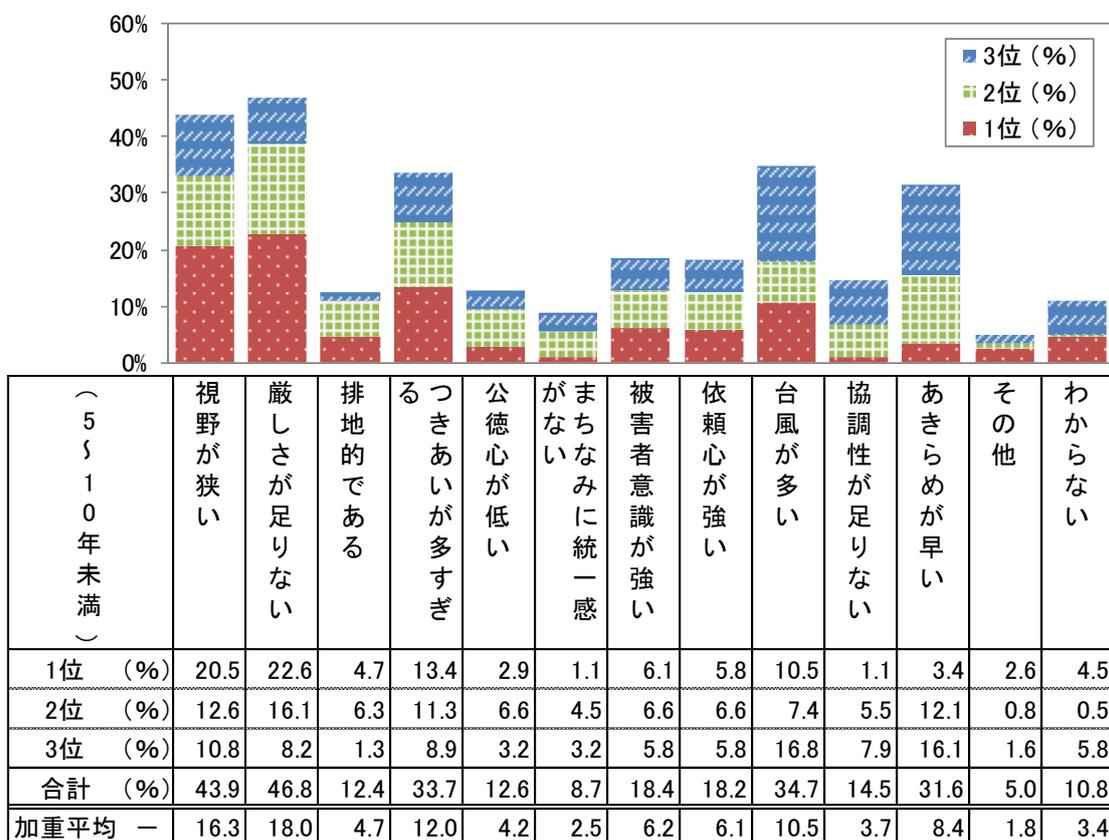


## II 本調査の結果 第5章 日常生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-50 県(民)の短所(県外居住経験別 2年~5年未満)

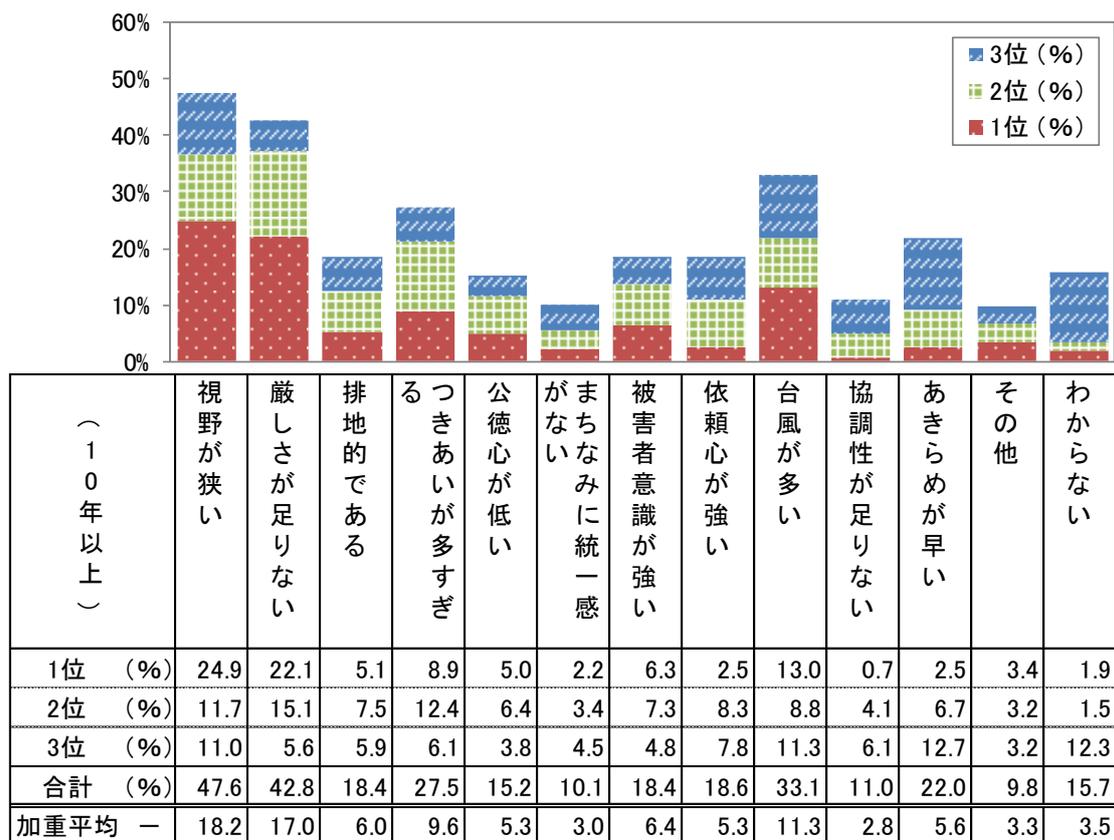


図表Ⅱ-5-51 県(民)の短所(県外居住経験別 5年~10年未満)



## Ⅱ 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-52 県(民)の短所(県外居住経験別 10年以上)



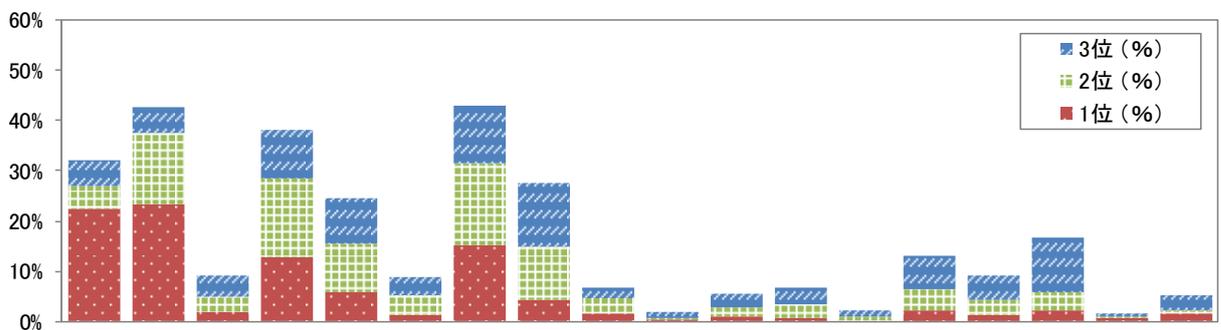
3. 米軍基地に関する行政への要望（問12）

（1）米軍基地に関する行政への要望

米軍基地から派生する様々な課題について、県や国に力を入れてほしい17項目から優先順に1～3位の順位をつけて選んでもらったところ、1～3位の合計比率は「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」(43.1%)の割合が最も高く、以下「日米地位協定を改定すること」(42.6%)、「騒音や低空飛行訓練をなくすこと」(38.2%)、「基地を返還させること」(32.1%)が上位となる。

加重平均でみると1位は「日米地位協定を改定すること」(17.2ポイント)が最も高く、2位は「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」(14.9ポイント)、3位は「基地を返還させること」(13.6ポイント)となる。

図表Ⅱ-5-53 米軍基地に関する行政への要望（1～3位順位づけ比率）



	こ と	基 地 を 返 還 さ せ る	日 米 地 位 協 定 を 改 定 す る こ と	米 軍 の 演 習 を な く す こ と	騒 音 や 低 空 飛 行 訓 練 を な く す こ と	環 境 汚 染 の 対 策 を 講 じ る こ と	ゴ ミ の 適 正 処 理 対 策 を 講 じ る こ と	米 軍 人 等 の 犯 罪 や 事 故 を な く す こ と	本 事 件 政 府 で 補 償 は 日 本 に お け る こ と	基 地 を 安 定 さ せ る こ と	軍 用 地 料 を 上 げ る こ と	増 交 付 金 や 補 助 金 を や す こ と	防 大 工 事 の 対 象 を 拡 大 す る こ と	基 地 関 連 業 者 の 安 定 対 策 を 図 る こ と	各 種 施 設 を 利 用 す る こ と	基 地 内 道 路 を 通 行 す る こ と	軍 用 地 を 早 め に 利 用 す る こ と	そ の 他	わ か ら な い
1位 (%)		22.3	23.3	2.0	12.7	5.9	1.2	15.1	4.4	1.6	0.3	1.0	0.7	0.2	2.3	1.2	2.3	0.8	1.6
2位 (%)		4.7	14.3	2.8	15.7	9.5	4.1	16.3	10.6	2.9	0.5	1.9	2.7	0.7	4.0	3.1	3.5	0.2	0.5
3位 (%)		5.1	5.0	4.3	9.8	9.1	3.6	11.7	12.5	2.2	1.0	2.5	3.4	1.2	6.7	4.7	11.0	0.5	3.1
合計 (%)		32.1	42.6	9.0	38.2	24.5	8.9	43.1	27.5	6.8	1.7	5.4	6.9	2.1	13.1	9.0	16.8	1.6	4.9
加重平均	—	13.6	17.2	2.6	13.2	7.7	2.5	14.9	7.8	2.2	0.5	1.6	1.9	0.5	3.6	2.4	4.2	0.6	1.5

## II 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

加重平均により過去の調査と比較すると、「基地を返還させること」の平成30年度調査の割合は15.9%に対して令和3年は13.6%と2.3ポイント減少し、他項目の中で減少差が最も大きい。「日米地位協定を改定すること」「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」の割合は「基地を返還させること」よりも高くなっている。

地域別にみると、1～3位の合計比率は全ての地域で「基地を返還させること」「日米地位協定を改定すること」「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」「騒音や低空飛行訓練をなくすこと」の割合が高い。北部、南部、宮古では「日米地位協定を改定すること」の割合が高く、中部、那覇市、八重山は「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」の割合が他項目よりも高くなっている。

年代別にみると、10代は「騒音や低空飛行訓練をなくすこと」の割合が最も高い。20代～40代が「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」の割合が最も高く、50代～70代以上が日米地位協定を改定することの割合が最も高い。

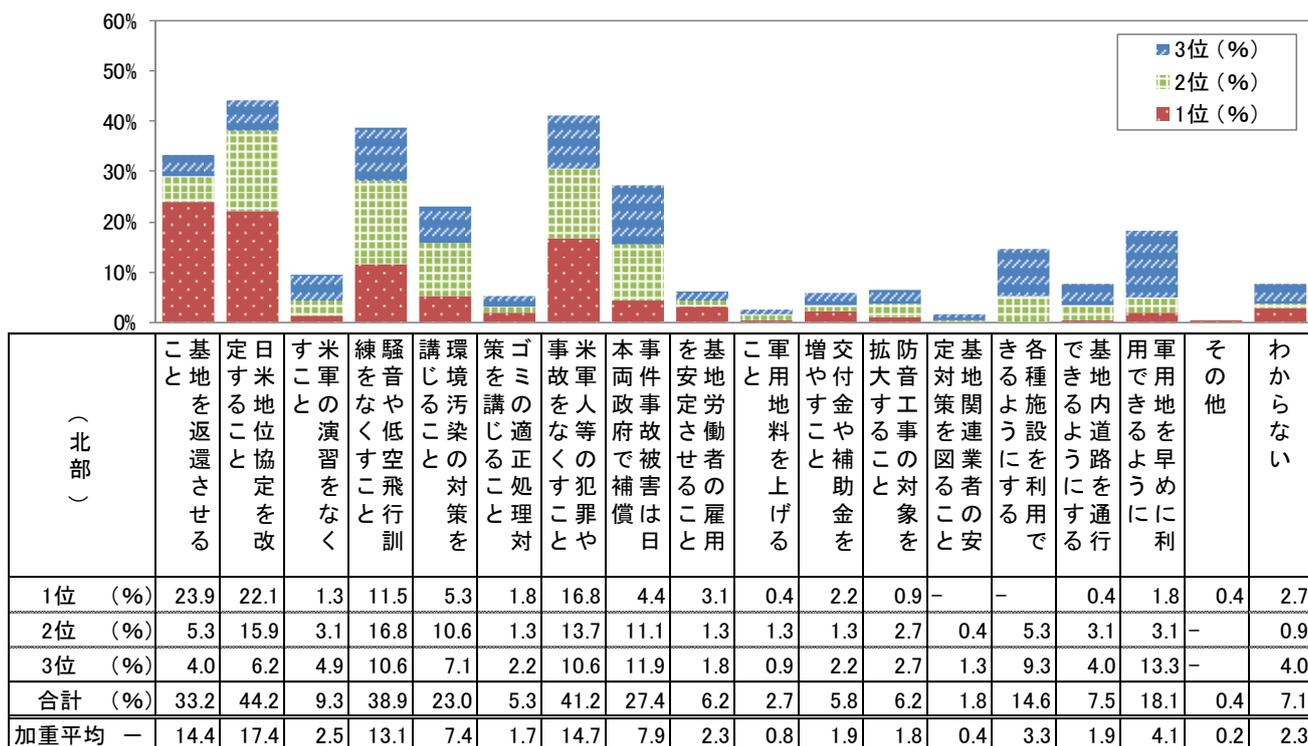
図表Ⅱ-5-54 米軍基地に関する行政への要望（時系列比較・加重平均）

(%)	基地を返還させること	日米地位協定を改定すること	米軍の演習をなくすこと	騒音や低空飛行訓練をなくすこと	環境汚染の対策を講じること	ゴミの適正処理	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと	米軍補償	事件事故被害	雇用者の安全
令和3	13.6	17.2	2.6	13.2	7.7	2.5	14.9	7.8	2.2	
平成30	15.9	15.5	4.0	11.7	4.1	1.3	14.6	7.4	2.3	
平成27	18.8	15.7	3.2	12.1	3.2	1.2	15.1	7.8	3.1	
平成24	20.1	19.5	4.2	11.4	1.8	0.5	15.2	7.5	2.4	

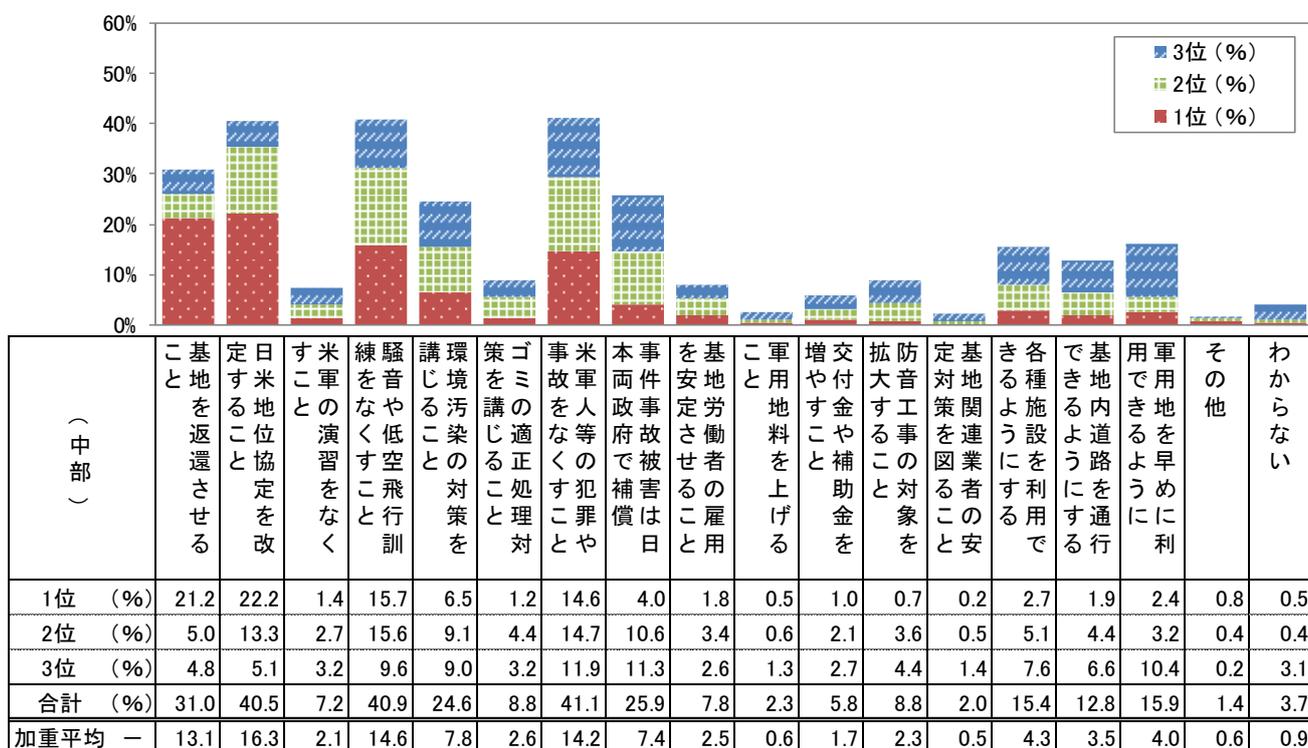
(%)	軍用地料を上げる	金を増やす補助	象徴的工事の対	防音工事の対	図安定対策を	基地関連業者	に利用できるよう	各種施設を	うに行きよ	基地区内道路を	よ利用地を早め	その他	わからない
令和3	0.5	1.6	1.9	0.5	3.6	2.4	4.2	0.6	1.5				
平成30	0.5	1.6	2.1	0.6	3.7	2.3	4.2	0.5	2.9				
平成27	0.5	1.2	2.1	0.6	3.2	2.5	4.5	0.3	2.0				
平成24	0.6	1.3	1.6	0.5	3.0	2.0	3.8	0.4	0.0				

## II 本調査の結果 第5章 日常生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-55 米軍基地に関する行政への要望（地域別 北部）

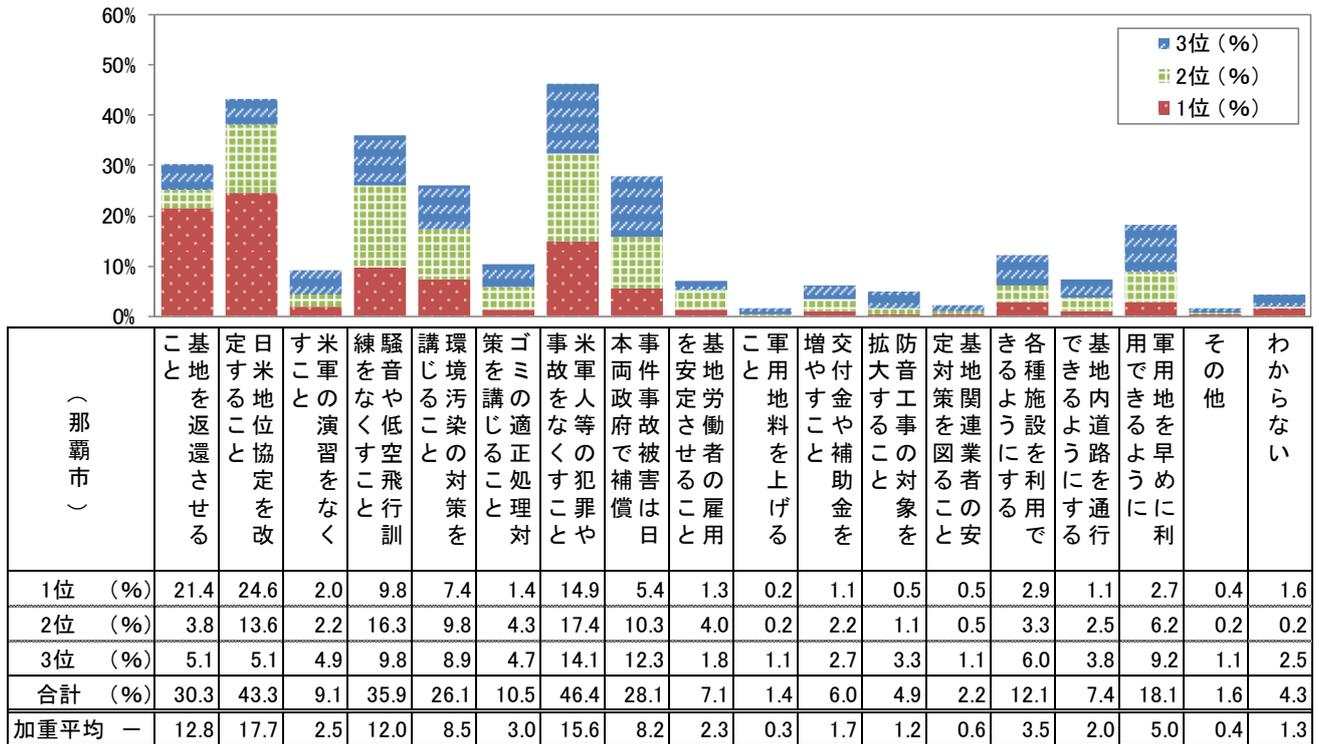


図表Ⅱ-5-56 米軍基地に関する行政への要望（地域別 中部）

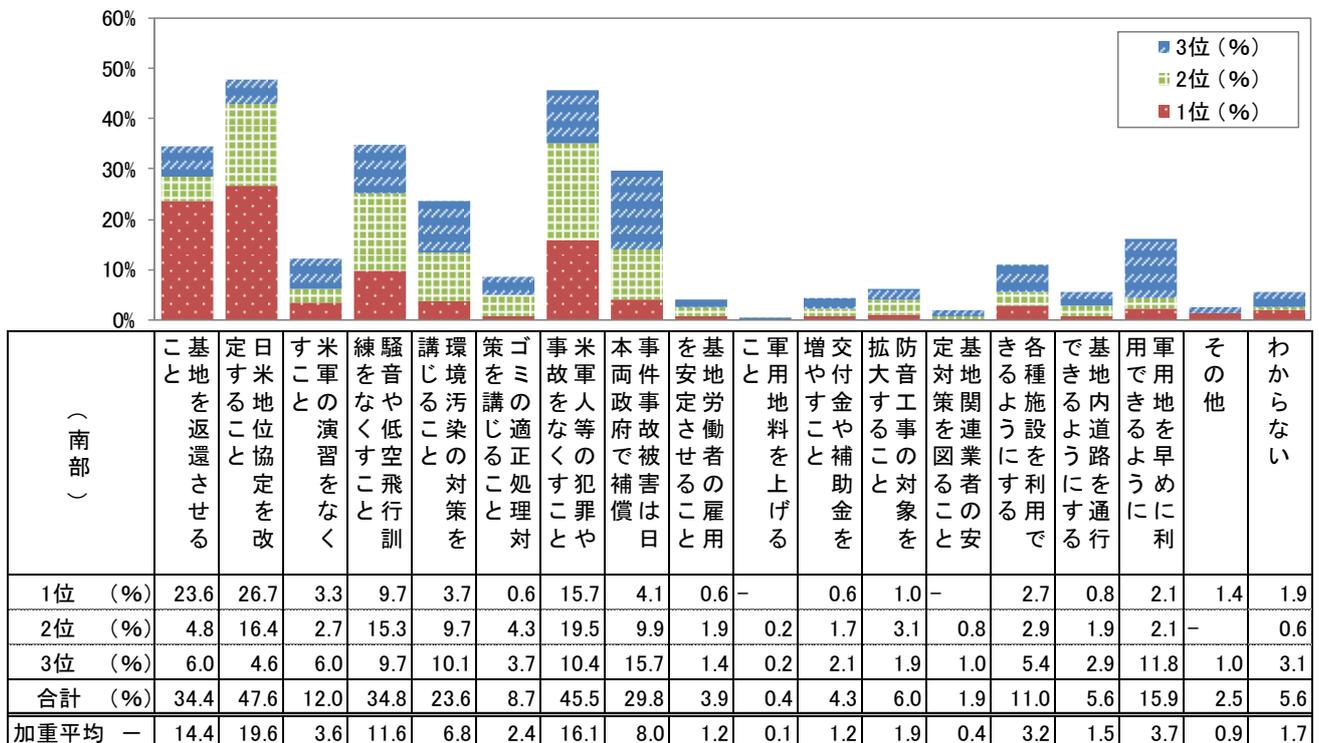


## II 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-57 米軍基地に関する行政への要望（地域別 那覇市）

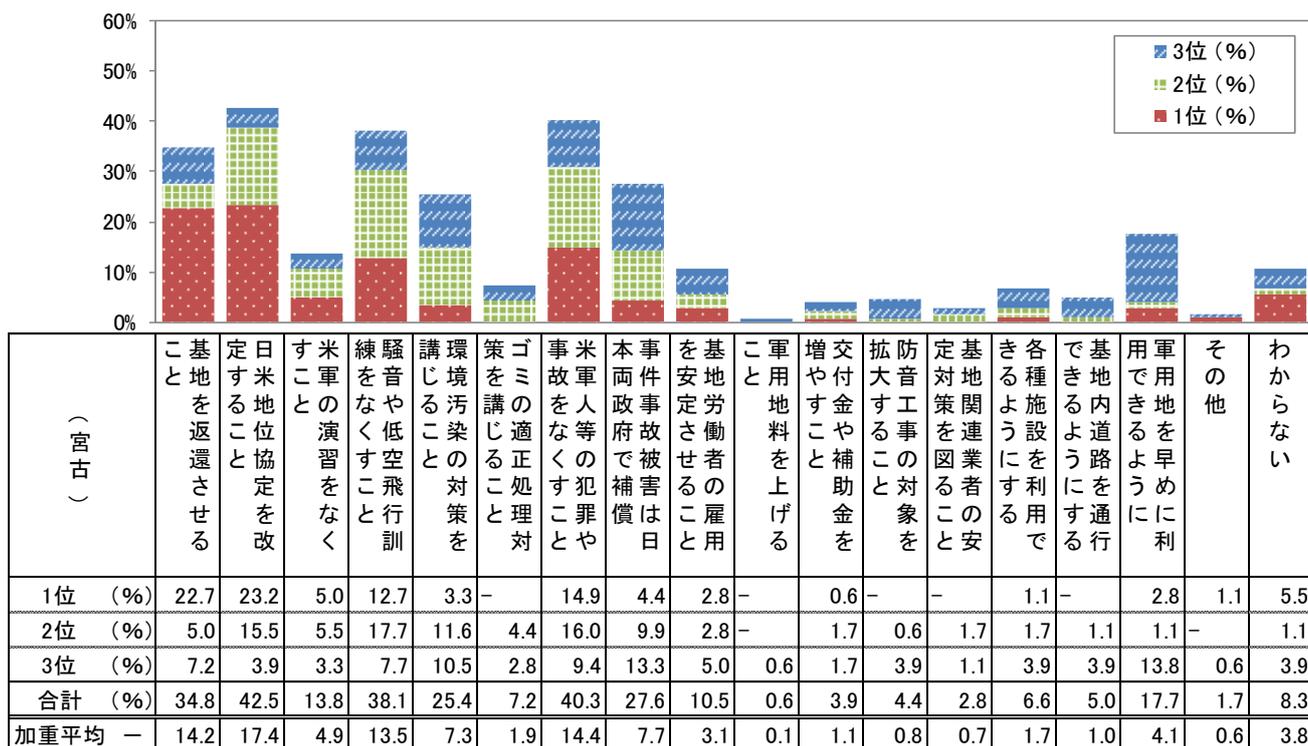


図表Ⅱ-5-58 米軍基地に関する行政への要望（地域別 南部）

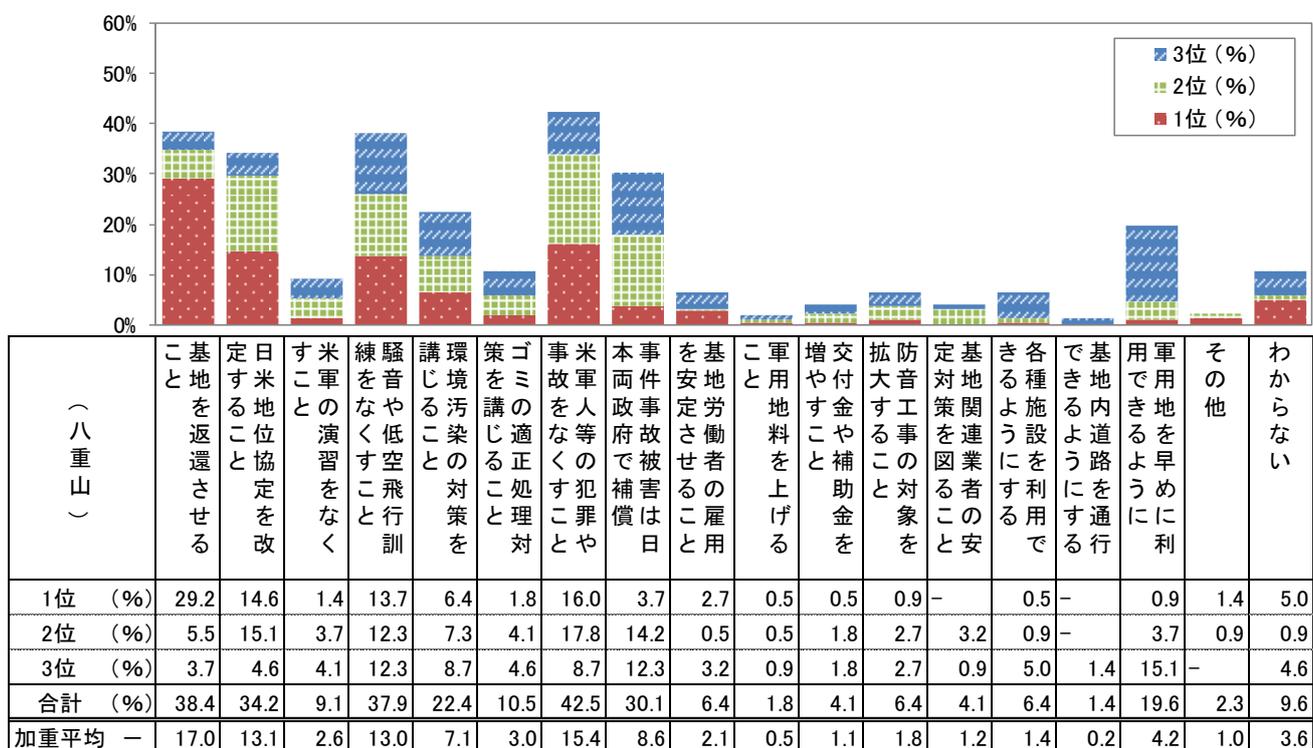


## II 本調査の結果 第5章 日常生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-59 米軍基地に関する行政への要望（地域別 宮古）

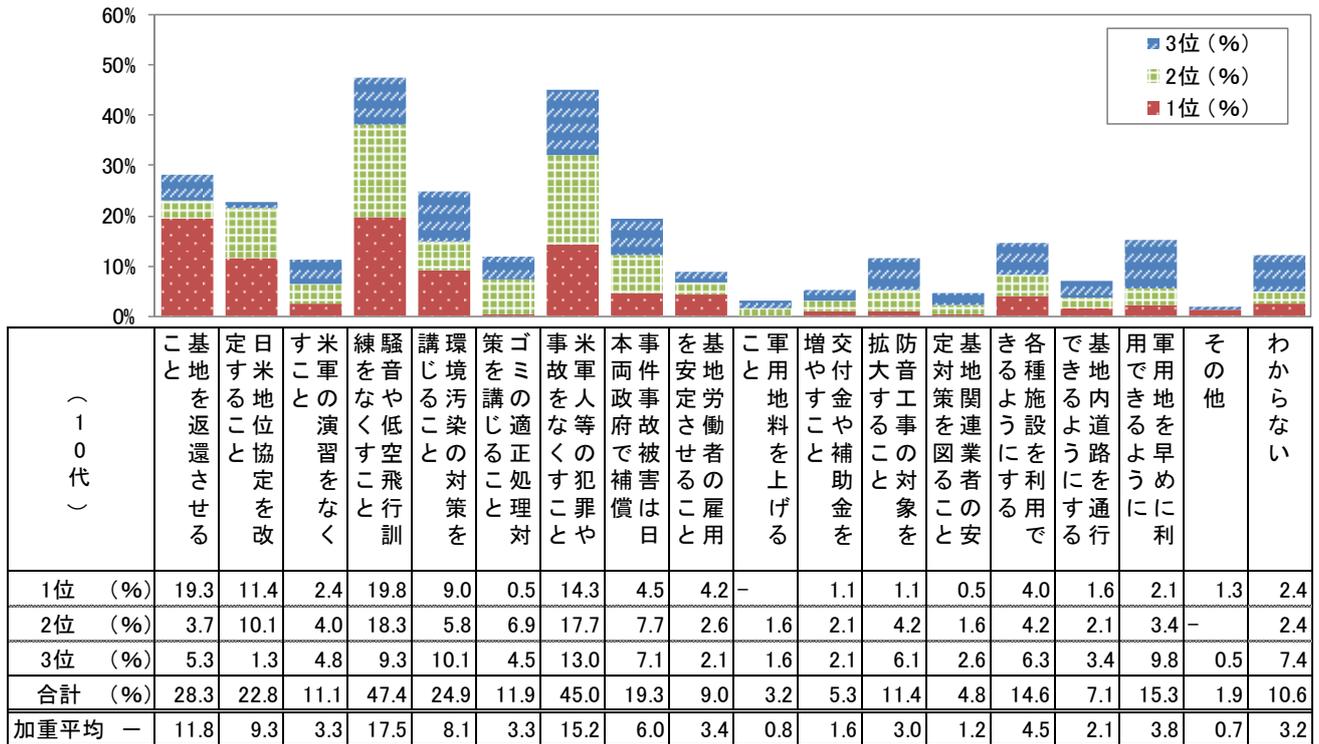


図表Ⅱ-5-60 米軍基地に関する行政への要望（地域別 八重山）

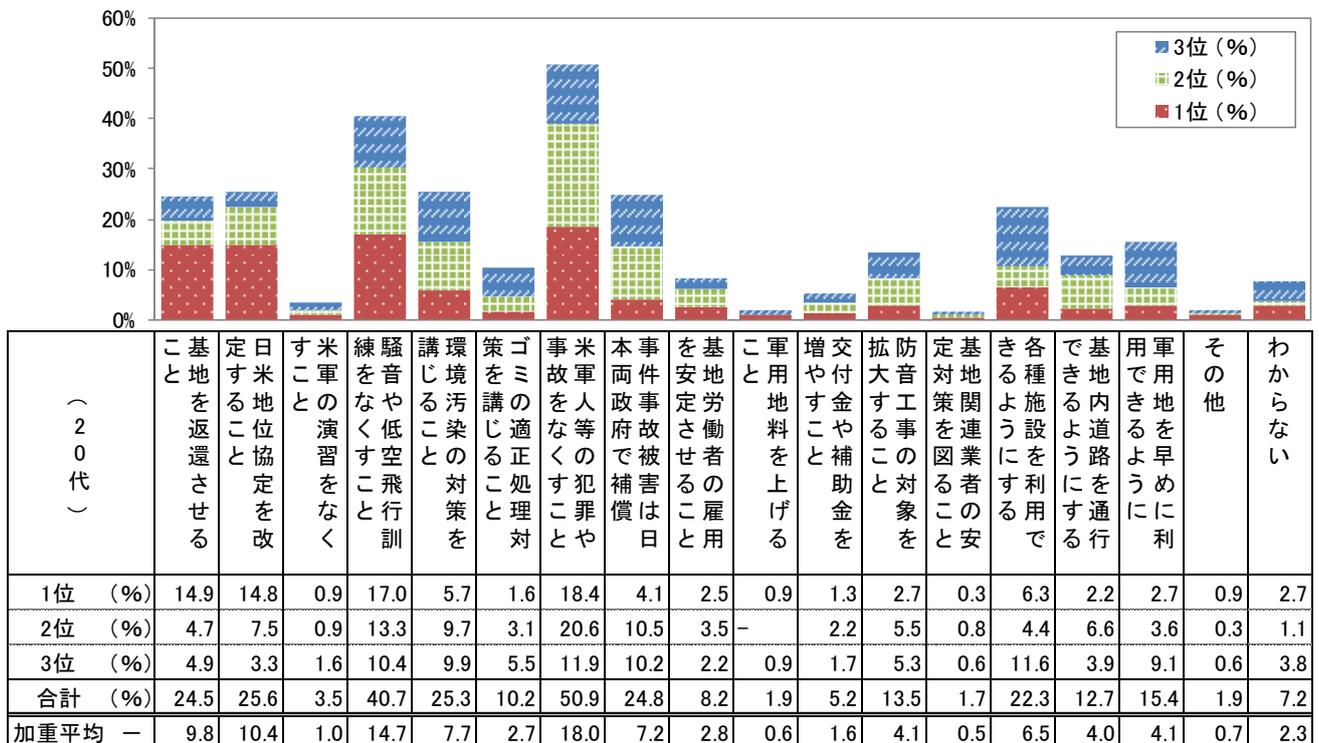


Ⅱ 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-61 米軍基地に関する行政への要望（年代別 10代）

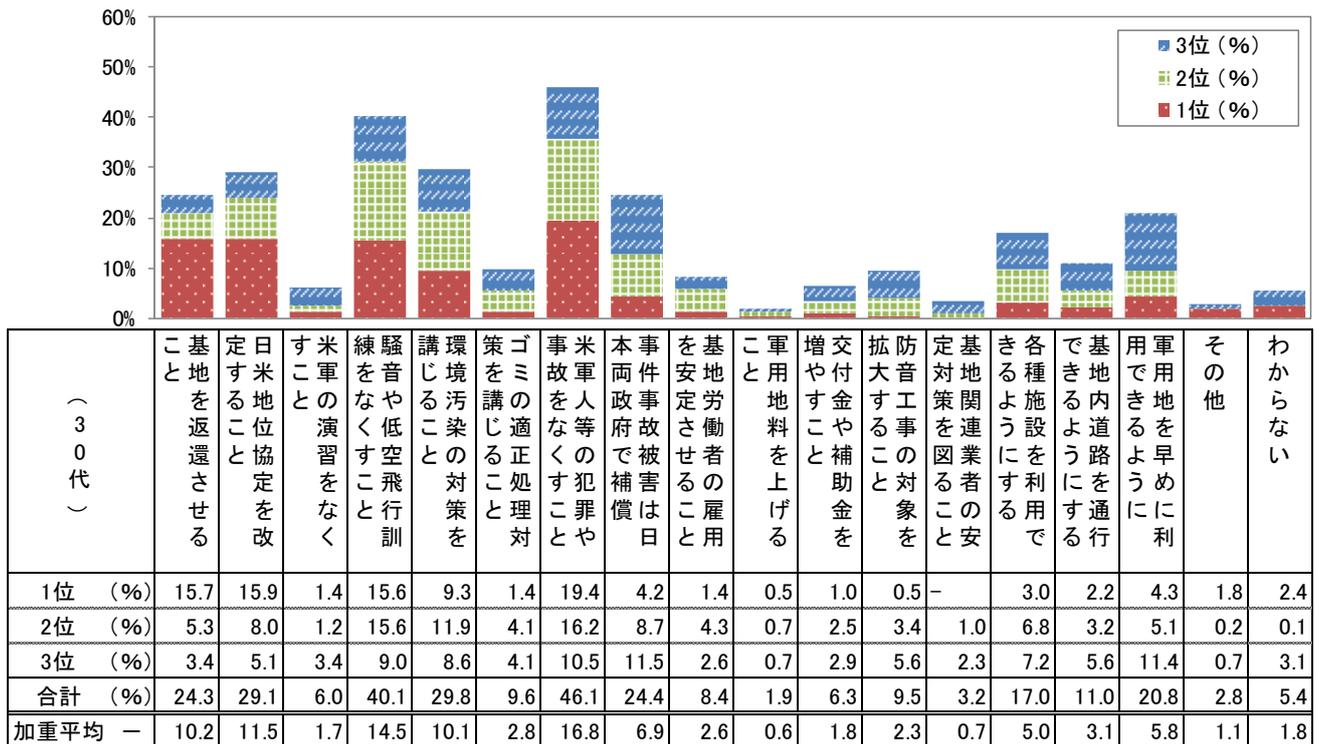


図表Ⅱ-5-62 米軍基地に関する行政への要望（年代別 20代）

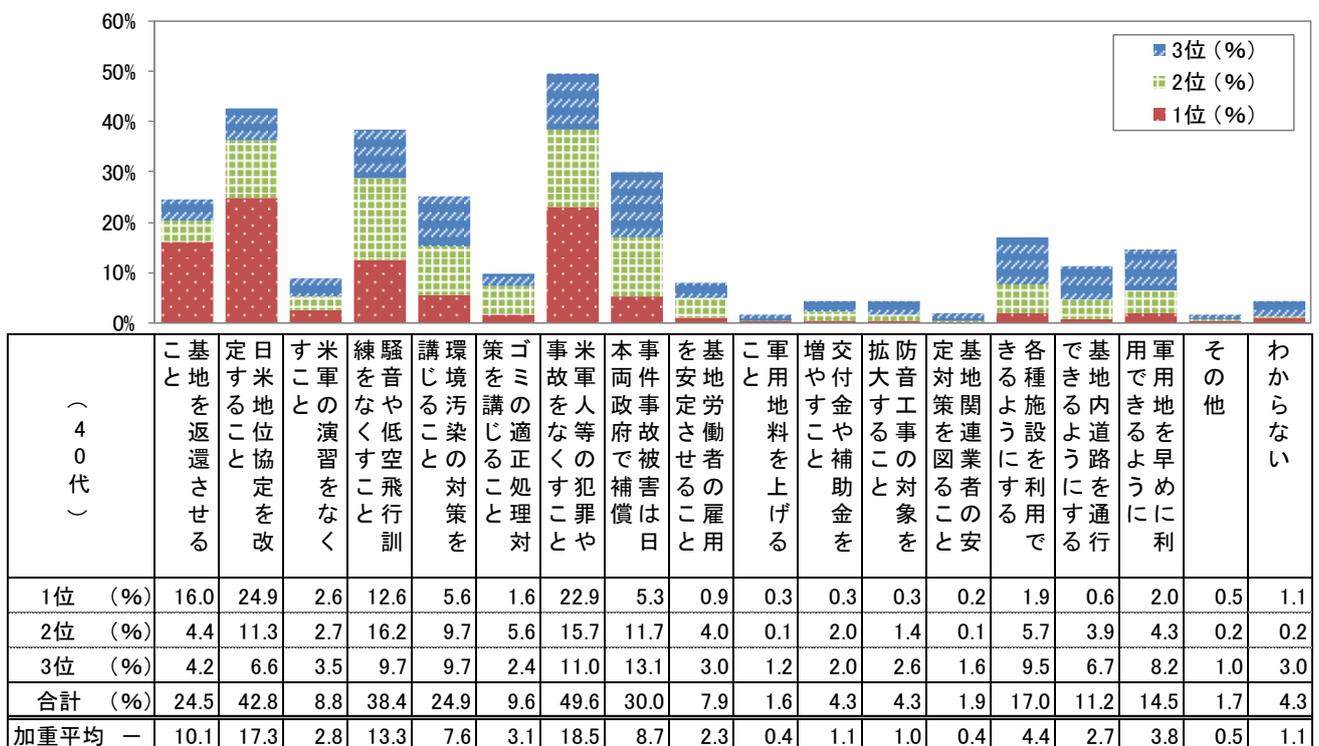


II 本調査の結果 第5章 日常生活空間に対する認識

図表II-5-63 米軍基地に関する行政への要望（年代別 30代）

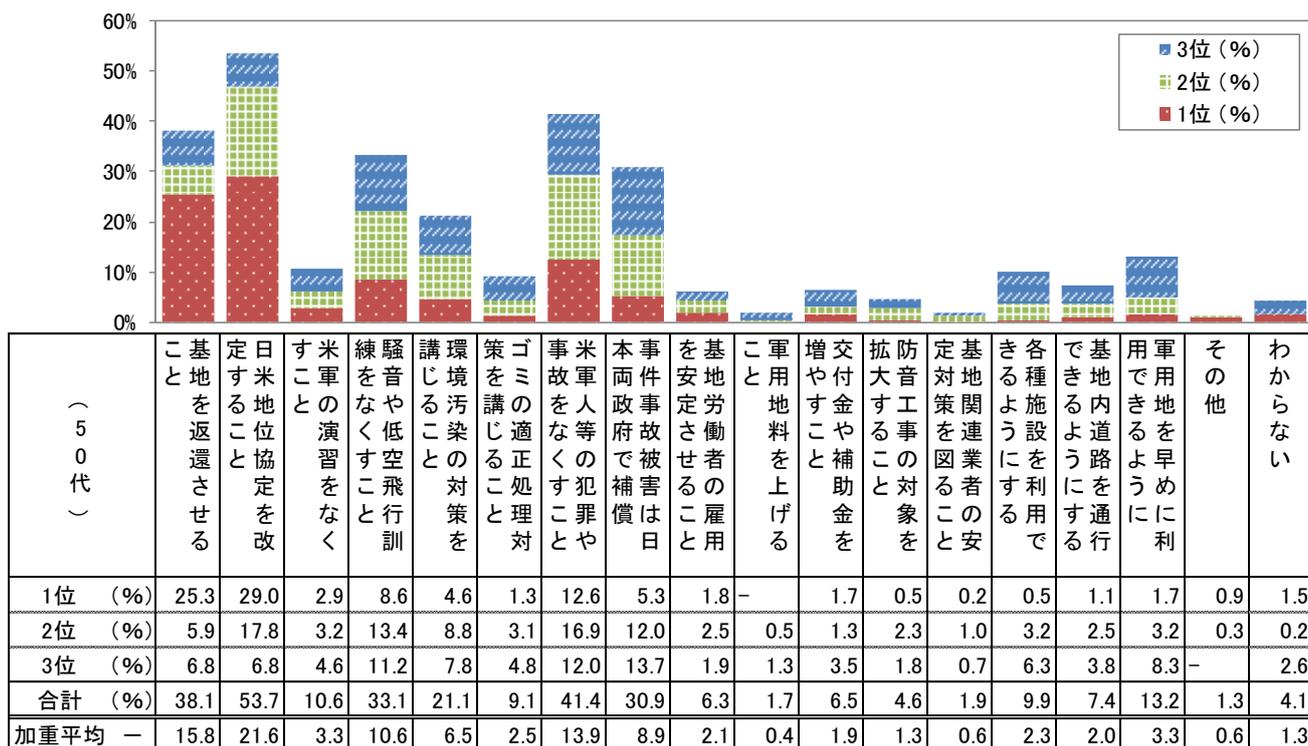


図表II-5-64 米軍基地に関する行政への要望（年代別 40代）



## II 本調査の結果 第5章 日常の生活空間に対する認識

図表Ⅱ-5-65 米軍基地に関する行政への要望（年代別 50代）



図表Ⅱ-5-66 米軍基地に関する行政への要望（年代別 60代）

